

# 市の生活保護行政に懸念の声！

## 国の法改正に乘じ 高圧的文書送る

「自分や家族や親族に関係するあらゆること（年金・預金・医療・雇用など）を調べてもかまいません」——こんなことを実質的に誓わせる文書が六月下旬、市内の生活保護受給者へ送られたことが本紙調査で分かりました。一方では一般市民向けに過剰なまでの「個人情報保護」を叫びながら、一方ではこうして個人を丸裸にするという異常で高圧的な大阪市の生活保護行政に対し、受給者の間に動揺が広がると共に、一般市民や担当職員からも「差別であり人権蹂躪だ」「憲法二五条違反ではないか」「業務として悩むところだ」など懸念の声が起っています。好景気の裏で深まる貧困。増え続ける受給者。バッシング的なマスコミ報道も目立つ中、私たち市区民はこの問題にどう立ち向かったらよいのか。市内の受給者の声から考えてみました。

## 戦後闘い取った制度、市は悪政の防波堤となり、市民生活守れ

「ここまではやるが」。六月下旬に大阪市内の

保護受給者・Kさん（六十代）は驚きました。

月一〇日施行のポイントは、不正受給対策として

保健福祉センターから届いた文書を見て、生活

この文書の根拠とされる改正生活保護法二七

で、①罰金の上限を二〇万円から一〇〇万円に

引上げると不正分の返還金にハナリタイを上乗せできる③被給者を養えない親族にも福祉事務所の判断で説明を求めらるゝことについてもこれ自体が「憲法第五五条(国民の生存権、社会保障義務)を脅かす凶害をなすこと」をスレたは思ひつゝもしたが、この文書はわたをせ渡すべからず。

#### ◆おんがし調へたわん

『集中的に』『同調書』への署名の強要を表現わつてゐる「スレた」。その「自分や家族や親族に關係するものゆゑの(年金・預金・医療・雇用など)を調べてもかまいません」といふ趣旨の誓約が入つてゐる。しかもそれは家族の代表者が署名するといふ形ではなく、家族を構成する一人ひとりが署名しなければならぬといふものでした。

「一方では一般市民向けに過剰なまでの『個人情報保護』を叫びながら、一方では『個人情報』を丸裸にし、親族にまで圧力をかける。これが生活保護被給者への差別として権限濫用でなつてゐる。しかもその情報後の拍子に、生活保護を申請する際も被給後の拍子に、

者の定期訪問で適切に話しかかれ、調査へ必要調査をしてゐる。それをなぜ改めし『調へたわん』一切文句は言ひませぬ』と誓約までしなければいけないのでしよ。おまけに文書が届いたのが改正法施行の数日前。心の準備を与へず、問答無用で実行に移るつゝ、何とも姑息なやり方です。「スレたは憤ります」。

#### ◆不況で仕事減り困窮

Ｋさんは妻と障害ある娘を扶養しながら教育・健康・防犯関連の仕事で二十年近く続けてきましたが、長引く不況で注文が減り続け、受注しても採算の合わない仕事が多く、数年前からは経費が売上を上回るやつになつてしまふ。手伝つていた娘(三十代)は自閉症的な障害で外へ働きにも出られず、妻の内職収入もわずか、生活は次第に困窮してゐました。

府外で暮らす八十代の父親は寝た切りの母親の介護で手一杯。会社員だった兄は失職して年金生活、妹夫婦は子育て真つ最中で、親族の誰からも援助は見込めませんでした。六十歳になると同時に年金を早めに受け取る選択もできなくなつたが、月わずか二万円と知つて断念。思い余

つて数年前、生活保護を申請しました。

#### ◆「生存権擁護」交渉

「別の仕事を探した方がよいのでは」といふ窓口で、「仕事には誇りを持っています。真面目に働いてゐるのに食へてくけなく国民を助けるのが生活保護制度。何のために憲法第五五条(国民は、健康で文化的な最低限度の生活を営む権利を有する)があるのですか」と粘り強く交渉し、紆余曲折の末、認められました。Ｋさんは現在も仕事を続け、その一方で娘さんには拍子者の助言で障害認定を受けて自立する道を探つてゐます。

「何が食へてくけるだけの利益を上げ、保護なしでもやっていけるやつは営業努力はしていますが、この不況では見通しが立ちませぬ。若い時から続けてきたこの仕事はそれなりの技術習得も重宝してきたし、人の生活に役立ち、喜んでもらえるので、たいへん採算が厳しくてもやめることはできません。今は職業選択の自由があるで、警沢のよつに言わわつていますが、得意分野を生かして働けなく、そんな社会の方がおかしいと思ひます」を述べた。

## ◆何が「不正」で「警沢」か

その一方で「不正受給」がマスコミのなまじり声高に叫ばれている現状については次のように指摘します。

「確かに、誰が見ても必要のない人が受けている『不正』な事例も知っておの、えげつない貧困ビジネスも存在します。が、それはほんたう行政として適切に対処すればよいのとおもっているからにすぎない。『警沢』や『不正』扱いは、十羽(じゅうう)ひつからげに、本当に保護が必要な人にも『肩身(かたみ)の狭い思いをさせるのはいかなるものでもいけません』

「少なむとも私たちがこの制度は本来の役割を果たしていかねています。最低限の生活が確保されているお母さん感じは妻にも娘にも見られ、相変わらずの家族ぐるみの労働と節約の一方で、たまに外食に出ることもありますが、以前には考えられなかったことでした。今、受給者へのバッシングが続く、まるで生活保護が警沢(けいさく)であるがのよういな世評(よせい)を醸(か)すしていますが、私たちのいかなるよかな楽しみも警沢(けいさく)なのでしょいか」

## ◆「不正」の問題「警沢」でもなく

そんな中、同じく今回の「同意書」。それと

家は「署名」にこだわるか「拒否」するかの選択を迫られています。

「私たち家族としては、ウイジェット調へりなことも、やまじいことならな何ひとつしりませぬ。だからといって、この同意書に署名するなとウイジェットは全くきかされませぬ。なぜなら、この問題は単に私たち家族だけの問題ではな、大阪市の全ての受給者、またこれから保護を受けようとする市民、ひいては、今後ますます福祉諸施策を必要とする全ての国民の人権・生存権に関わる問題だからです」



そんな中、今回の法改正や市文書のきつかけとされる「不正」なものは、一歩の事象を過大に報じ、マスコミや、それを受給者抑制のため最大限に利用したい政府に与える意図的キャンペーン以外の何物でもな、警沢(けいさく)呼ばわりは、至っては、余りにも貧困な年金や賞金の水準を覆(おほ)い隠(かく)すための悪意(あくい)あふる宣伝(せんでん)他なりません。

その上で、不正に受給者を減らしたければ、アメリカや大企業の求めをまともに労働法制や福祉法制を改善し、失業者・貧乏人を大量生産し

てきた政治を根本から改めればよいのです。また本当に「不正」をなくしたければ、窓口や調査などの業務を落(お)ち着(き)て適正に行なえるよう、せめて福祉に携(たづ)ねる職(しやく)員(いん)だけでも、不安定な非正規ではな、正規で雇用(こ)うねばよいのです。それ、生活保護受給者の増加が「財政を圧迫(おさ)す」といふなら、長年月、無為(むゐ)に眠(ね)っている莫大(もくだい)なアメリカ国債(こくさい)を「こんな時こそ売却(ばいりょく)すればよいのです。大阪市でいえば、カジノ誘致(ゆうざい)や大阪都構想(おさかみやま)など、財界だけが喜び、庶民には口利(くち)のいい利(り)なしの施策(しやくさく)に投(てい)入(にゅう)する巨額(きょく)の巨額(きょく)を回(まわ)すのです」。

「おれは、この「同意書」を通じて微塵(ちり)を一つも『L』が、Lの今回の「生活保護受給者」については、日本国民が戦争の犠牲(ぎやせい)の上に戦後闘(むす)った福祉制度(ふくしせいど)を根底(こんてい)から覆(おほ)い隠(かく)すことと、いって通(とお)るものであり、人道的にも法的にも、断(こと)じて認め(め)ないつもりです。むしろ市は率先(さきまね)して国の悪政(あくせい)を闘(むか)い、その防波堤(ぼうはてい)となして市民生活を守(まも)るべきです。しかもかわらぬ、このやうな欺(たぶ)るべき行政(ぎょうせい)が継続(けいぞく)されるなら、地域新聞(ちいきしんぶん)として追及(おし)及(お)つて手を緩(ゆる)めなければいけません」。

# 払えば食えぬ！

## 国保料引き下げ求め「交渉」



→ 高過ぎる保険料に「食えば払えず、払えば食えない」という切実な実情がぶつけられた「国保交渉」は七月十六日、港区役所五階で

食えば払えず、払えば食えず」。七月十六日に港区役所で行なわれた「国保交渉」には十数人が参加。①保険料の引き下げ②保険料や窓口負担の減免制度の拡充③困窮世帯への滞納処分の中止などを求める声は、深まる貧困化の中で支払い限度を超える保険料に苦しむ庶民の実情を訴えました。主催は区内の諸団体から成る「港区国保対策連絡会」。港区役所（窓口サード）課保険年金担当が対応。

### ◆「じゃあ生活できんぞ」

回会が事前に提出していた「要望」に区役所が「回答」を示したあと、参加者から主に次のような声が上がりました。

- ・ 月五万円の年金収入から数千円の保険料。払いたくても払えない。
  - ・ 月収十四〜五万円から家賃などを払い、さうじ一万円の保険料。じゃあ生活できんぞ。
  - ・ 失業保険（月十一万）の時は保険料一千五百円。今は月十方で保険料二万円。矛盾してる。
  - ・ 短期証などによる事実上の給付制限は「給付の公平」の原則に反するのではないか。
- これに対して区役所は市の窓口としての基本

姿勢を次のように強調し、理解を求めました。

① 財政基盤が脆弱（たかつかやう）という構造的な制約がある中、市は一般会計から巨額を繰り入れたり、独自の負担軽減制度を導入したり、国に改善を求めたりして、国民皆保険制度の維持と被保険者の負担軽減に努めている。

② 保険料を滞納している世帯、保険料や窓口負担の減免を望む世帯、短期証や資格証を交付せざるを得ない世帯などに対しては、制度の枠内で職員力の及ぶ限り、実情を把握した上でそれに見合った対応に努めている。

③ 窓口受けた要望等や実情は福祉司に伝える。

### ◆ 庶民の不安と地方公務員の苦悩

国保は無職・非正規・自営など低所得者の人命綱上ですが、国保会計への国の支出は減り続け、加入者を圧迫。大阪市は保険料の二年連続値上げなど四年連続黒字の一方、滞納世帯は四割（二〇一四年）に上っています。今回の交渉はこうした中で行なわれ、生活と健康への庶民の不安、それを解決できない政治と行政、そしてその間に立つ第一線地方公務員の苦悩が改めて浮き彫りになりました。

# 核も戦争もない未来を！

## みなと通を「非核・平和行進」



→「子どもたちに核のない未来を」とシユブレ  
 ヒコールを上げながら炎天下のみなと通を進  
 む「非核・平和行進」参加者 〓七月十七日午後

「核も戦争もない平和な未来を子供たち  
 に！」「繰り返す原発炎書！」「めざそう脱原  
 発社会！」。七月十七日午後、炎天下のみな  
 と通に力強いシユブレヒコールが響き渡りまし  
 た。毎夏恒例の「非核・平和行進」のデモの隊  
 列です。参加したのは、港・西・大正・住江・江  
 成・浪速・住吉区の労働者・市民から成る「南大  
 阪平和人権連帯会議」のメンバー約二〇〇人。

### ◆労働者や議員が「原発再」訴え

出発地点の西区・新町西公園では、主催の南大  
 阪平和人権連帯会議・山元一英議長や港・同南  
 栄会支部・山口委員長らが「原発再」を訴え。来  
 賓の半田 實<sup>みゆの</sup>府会議員や奥野正美<sup>あきの</sup>市会議員（代  
 理で事務所の江川広志<sup>ひろし</sup>）も連帯を表明。西・  
 大正地区平和人権連帯会議・武洋一<sup>たけひろ</sup>議長のリー  
 ドで「団結がんばろう」が唱和されました。

### ◆「川内原発」反対

このあと同公園を出発した参加者はみなと通  
 を西へ向かい、「ヒロシマ・ナガサキ・フクシマを  
 繰り返すな」「全ての被爆者に国家補償を行な  
 え」「集団的自衛権の閣議決定は無効だ、撤回  
 しろ」「戦争で死んだ国への反対」「川内原

発の再稼働を許さんぞ」「脱原発社会をつくら  
 う！」などシユブレヒコールを上げながら、  
 港区天保山までの約七キロを「一時間に三つて歩  
 き通しました。

行進の途中、夕風あたりでは沿道の女性が駆  
 け寄り、「川内原発を止めろ」と握手を求め光景  
 が見られ、反核平和に寄せる市民の想いの強さ  
 を感じさせました。

### ◆核と人類は共存できない

終着地点の天保山公園では、港区区平和人権  
 連帯会議・中村吉政<sup>よしか</sup>議長が「川内原発の再稼働  
 が規制委員会ですら解されたというが、政府も規  
 制委も『安全』を明らかにできていない。こん  
 な無責任なことを絶対に許してはならない。福  
 島第一原発事故の原因究明も収束も何ら解決し  
 ておらず、核と人類が共存できないことは明ら  
 かだ」と強調。最後に全日連連帯トリック支部・  
 和田書記長のリードで「恒久的な平和を実現す  
 るためにがんばろう」が唱和されました。

参加者の一人は「とにかく暑くてくたくたに  
 なりましたが、かつてない市民の反応に元気づ  
 けられました」と話していました。

**あれこれガイド**

● **市岡下水処理場のイベント** ①夏休み子供

教室⇨小学四〜六年生を対象にした新イベント。DVDやPAワーポイントで大阪市の下水や処理場の勉強ができる。クイズあり。夏休みの宿題に役立つ。八月二十三日(土)午前八時〜九時半と十時〜十一時半の二回(いずれも定員八十名)。

前日まで電話申込が必要②お花見⇨百日紅の開花に合わせて新イベント。涼しい時間帯に向日葵(ひまわり)他の花も合わせて観賞できる。撮影写真や絵画作品は後日の一般公開日に展示。八月二十三(土)二十四(日)三十一(土)三十一(日)の午前八時〜十一時半③一般公開⇨例年開催の真夏を避けて涼しい季節に変更。汚れた水がよみがえる仕組みを学べる「施設見学」最終回は十五時半から⇨写真展のついでには**昨年の様子**⇨をメインに、①微生物の顕微鏡観察②下水道の歴史を学べるDVD上映③下水道資源の有効利用④ゲーム⑤みなりん⑥ミニパトにのれる(午前十一時〜十二時)などのコーナー。地球環境に優しい肥料や透水性レンガなどのプレゼントあり。家族で楽しむのも夫がされている。十月四

日(土)十〜十八時(小雨決行)。市岡一・二五・一五。☎六五七二・二三三六。



● **みなと麻雀大会** 「仲間づくり・健康づくり・生きがいづくり」の場、健康麻雀を広げよう」と開かれる港区で年間最大の麻雀イベント。港区麻雀業組合主催で二十八回目⇨写真(右の下)は**昨年の模様**。八月十八日(日)正午から十七時頃まで「マーシャランひろ(磯路二・一五・三三)で定員二十八人。出場費は一人十円。各賞多数。健康麻雀は認知症予防や生きがいづくりの効果がある⇨注目。厚生労働省認可。全国健康福祉祭(わんぱく)ピックの正式種目。参加(良字などの問い合わせは☎六五七四・六八四三)ひろへ。

● **「海の日記念・中学生海の作文」コンクール** 海への関心を高めるため毎年実施。テーマは

「海」だが海運・造船・港湾といった範囲にとどまらず、広く海に関わるもの(題名は各自で付ける)。応募資格は今年四月一日現在、大阪・京都・奈良・滋賀・和歌山の各府県に所在する中学校の生徒。原稿の長さは四百字詰の原稿用紙五枚以内(原稿には題名・学校名・学年・ふりがな付き氏名を明記)。締切日は九月二十日(必着)。入選発表は十一月下旬。応募問い合わせは主催の公益社団法人近畿海事広報協会(〒552-0021 大阪市港区築港二・七・一五 港振興ビル二〇四、☎六五七二・六二八七)へ。

● **ワークみなと「東北食品市」** 東日本大震災で被災した福島県いわき市の精神障害者作業所が、宮城県産の材料を使用して、昔ながらの製法で作った体と心にやさしい豆腐・豆乳・書豆(あずき)豆腐・ドーナツなどを販売し、復興努力を物心両面で支援。毎月第一・第四火曜十五時半から(売り切れ次第終了)▽ワークみなとは主に精神障害者を対象とした就労継続支援B型の指定障害福祉サービス事業所(夕凧一・六・三、☎六五七二・七五一一)。

● **ムチ打ち(首・腰)無料相談云** 交通事故で

ム子打ちになった被害者を対象とした無料相談会。八月二十四日(日) 十時十八時に行政書士のむら事務所(築港二・七・一・六〇八)で。一人約一時間。事前予約制(電話かEメールで)。「どうしたら止むべきな補償が得られるかをアドバイスします」「事故後、早めの相談が良い結果につながります」(同事務所・野村光恵さん)。Eメール: info@jikkoo110-nomura.com, TEL: 六五七六・六〇七八, FAX: 六五七六・六〇七九。

●緑の地球ネットワーク(GREEN) 中国山西

省大同市の黄土高原で一九九三年から緑化協力を続ける認定特定非営利活動法人。地球環境のため国境を越えて力を合わせている「写真」の下ののはイメージ。次のような協力方法がある。(1)会員になる(2)年会費一万二千円(3)会報を購読する(4)年間一千円(5)カンパする(6)金額自由(7)税制上の優遇措置あり(8)絵はがき『黄土高原の花』を購入する(9)八枚組二百円(10)『アオ』『よみがえろ森』を購入する(11)二十五分五千円(12)古切手・書き損じはがき・外国「ライオン」商品券等を送る(13)ポスティングサービスになる(14)会報発送など(15)黄土

高原スタディツアーに参加する(16)黄土高原を訪問し、緑化協力の成果を観察し、村人と交流し、失われた緑を取り戻す試みを体験(そのついで案内)①DVD『黄色い大地に広がる緑』草の根環境協力の二十年を『を観る』緑化協力二十周年を記念して制作。無料▽いずれも詳細・申込等はGENの事務所(市岡一・四・一四・五階、六五七六・六一八一、FAX六五七六・六一八一、Eメールgentree@s4.dion.ne.jp, http://homepages3.nifty.com/gentree/)へ。



●日本クリニックラウン協会 入院生活を送る子どもたちを定期的「訪問し、遊びとユーモア

を届け、笑顔を育む臨床道化師「クリニックラフ

ン」の活動を普及・推進する特定非営利活動法人。〇五年から港区を拠点に全国で活動。一三年度は三四病院を二六〇回訪問、約八千人の子供と関わった(17)写真(上の下)は活動イメージ。①新規クリニックラウン募集(一五年度研修生募集)②応募書類③エントリーシート(同協会HPからダウンロード)④クリニックラウンになったら取り組みたいこと(千二百字程度)⑤表情の分かる写真(三カ月以内に撮影したサービスマン)を郵送かEメールで九月二十五日(木)までに提出し、十月十一日の選挙会ガイダンスに参加すれば、十一月十五日の「選挙会」に参加でき、合格すれば研修を受けて「認定試験」をめざす(18)支援の方法(19)寄付する(20)会員になる(21)マンパワーサポートになる(22)関連イベントに参加する(23)臨床道化師フォーラム報告書を読む(他)④いずれも詳細は同協会(築港二・七・五港振興ビル305A TEL・FAX六五七五・一五五九)Eメール: info@clinicoincio.wns.jp ホームページ: http://www.clinicio.wns.jp/へ。

# みなとサロソ

## 孤独死に思う

池島・勝部泰臣 八十一歳

身内や知人の周辺に孤独死が続いた。育てた我が子と離ればなれになって、恐ろしく不安な淋しい思いをして死を迎えた人のことを思うと、戦争はあつたけど大家族が主流だった昭和の十年代までは良き時代であったとさうに思う。豊かさを限りなく求め続けて断絶や無関心ばかりはびこり、日本人特有だった義理・人情が遠ざかっていくのが嘆かわしくてならぬ。

時代はあげて経済至上主義。かつては「西欧の毒がまわって」と言っていたが、今やこの国も毒をまき散らしているではないか。何か大切なものを忘れているんじゃないか。

子や孫のいる知人の女性が言った。「いつ一人でも死んでもさういふ覚悟は出来る。何にも期待はしない」と。強い人だと思つ。同時に「この女性にそんな覚悟をさせた今の時代の風潮」

れって一体なんだろう？

文明の発達に反比例して、人間は退歩してゆきつゝあるんじゃないか。

## 「宅配弁当は学校給食ですか？」

田中・小西正敏 六十歳

大阪市では今年四月一日から中学一年生を対象に学校給食が実施されています。業者弁当によるデリバリー方式が採用されましたが、その理由を大阪市は「本市における厳しい財政状況や、教育活動への影響、短期間での実施などを考慮した結果」(七月十一日付の大阪市の回答)から抜弁と説明しています。つまり、大半の中学校に調理設備がないという現状のもとで、少しでも安く、早く、実施に移すために、学校調理方式ではなく、いわば「宅配弁当」的なやり方を導入したのです。

これに先立ち生徒や保護者の間では、準備段階(一部の学校でのテスト段階)から様々な疑問や不安が出されていました。例えば、①おかずが冷たい②汁の量が一定である③器がプラスチックである④アレルギー体質の生徒への

対応が不十分などです。これに対して大阪市

では四月以降、これらの声を採り入れ、①冷めてもいい献立を検討する②学期から汁の量を調整できるようにする③食缶を用いて

温かいおかずを提供する(月一回の力し、週一回程度の汁物など)④アレルギー食品を表示するなどの改善策を次々と打ち出してきています。しかし、多少の改善がなされたからといって、デリバリー方式というやり方は同じです。

そこでよく考えてください。たうえ栄養士のレシピに基づいているとはいへ、民間業者が採算のとれる範囲内(の材料や手間)で作った弁当を、育ち盛りの子供たちに配送・提供するというやり方が、果たして学校給食といえるのでしょうか？ 私は違うと思います。

各学校の調理職員が自分たちの調理室や給食センターで生徒たちの健全な成長を願いながら心を込めて調理し、それを生徒たちが当番制で配膳し、温かいものは温かしく、量も一人ひとりに合わせ、また食事マナーを学び、お喋りもしながら楽しく食べる一それが学校給食本来の姿ではないでしょうか。つまり学校給食とは単

なる栄養補給の場はなへ、次代の担い手を育成するための教育の一環として捉えるべきではないかと考えます。

現在「学校給食」の名のもとに、学校給食とは似て非なる「宅配弁当」が提供されている大阪市の現状を、みなさんにはどう感じますか？ 中学生を持つご家庭保護者の方にはどう方も、これを機会にぜひ一緒に考えてみたいと思いませんか？

## 「区画整理事業」の歴史に感動した

区・会・庁員

毎月ネットを拾い読みしています。京都から十数年前に越してきたので、特に港区の歴史が分かる記事に関心があり、今後は「区画整理記念施設」の活用できる（前）の一面が印象に残りました。「港区区復讐土地区画整理事業」という壮大な規模のまちづくりの歴史があったことにとても感動しました。安治川の底を浚（ひ）いて所入流し込んだという言（かた）上げの様子を写真や図解で理解でき、また区民が自分の土地を交換（か）わったのだからと分かってきました。文字通

り区民が力を合わせて完成させた事業として、ぜひ後世に伝え残すべき歴史だと思えます。そなたは、その記念のための施設づくりが十年以上も前を回って進んでいないことはとても残念に思いました。記事からは特にその原因は分かりませんが、最後に挙げられていた「この問題について区民が考えたいポイント」を参考に、区民が関心を高め、大阪市の担当部署に連絡してほしいかなという思います。

## 「区民の土地臨時にも活用を

区・会・庁員

「区画整理記念施設（仮称）」の活用



↑ 辻悦子さん（市国元町）からの絵手紙

を読んで。去年も同じような記事があって、区民の財産（土地六三〇坪と資金三六億円）が宙に浮いたままであるという残念に思ったものでしたが、一年たってもまだそのままでいいのは、経済状態など理由があるにしても、やはり担当する大阪市の怠慢だと思えます。ぜひ区民は（私もですが…）関心を持ち、声をあげたいと思います。また計画が実行されるまでの間、土地だけでも何らかの形で活用できないのでしょうか。駐車場やイベントや子供の遊び場など、その気になれば、いろいろな臨時の使い方はあるのではないかと思います。

## 福島の当事者の想いを伝えた

市国元町・辻悦子六十五歳

「福島の現状に想い 復興支援集云、原発危険性に警鐘」（八月号）の一文を読んで。大阪では福島の人たちと同じような事態に直面するところになかったため、これまで正直、人ごとのような自分がいまいたが、読みながら、改めて当事者の方々の想いに気が付かせて頂き、自分に何が出来るかを考え、行動に移していきたい

と思いました。

### 銭湯 「これ以上なくならないでー」

田岡・七十年代女性

「銭湯の灯  
ついで田岡が、楽しく読んでいる様子」。「銭湯の灯  
またーしー… みな温泉惜しまず廃業」(前編1  
三編)を読んだ。「あ、またか…」と悲しくな  
りました。うちの近所にも一軒あって、月に何  
度か入りに行っていますが、それも以前、体を  
悪くしてから何度か休まれたものの、今は頑張っ  
ておられます。しかし、いじましたよくなるかと  
心配です。他の銭湯さんも似たような状況の不  
安な経営が続いているように感じます。家風田  
が普及している中にもならないところも思ってい  
ますが、記事でもあったように、地域の宝物として  
みんなが週に一度くらいは入りに行くといい協  
力をしながら、やはり最後は国や府や市がいつ  
から応援すべきだと思います。

### 「みなや温泉」の廃業は残念

尾崎 隆子 (かげあつこ)  
尾崎 隆子 (かげあつこ)

「みなや温泉廃業」の記事 (前編1三編)を

見。何とも残念な感じがしました。はっぴのひ  
のびのび、ホーッと過した温泉田舎の感じが  
大好きです。諸事情で経営を続けるのは大変な  
ことでしょう。ご行っているところのようでお客  
の数は確かになさると思われます。地域の知恵



↓尾崎隆子さん (池島) からの絵手紙

で存続をーとして女性の意見 (前編1の欄)  
に賛成です。

また、いつも思っていることがーあります。お湯  
の温度が高めになっているため、湯舟にぬぐっ  
り浸かれません。その感じるのは私だけじゃな  
らなくて、みんな同じように思っている。「熱  
いわねー」のお湯」といふ声も聞きます。どの  
お風呂屋さんも私が行く三カ所位の話ですが、  
同じです。複数ある湯舟のーしただけでもぬぐめ  
にっくんだり、ありがとうございます。

### 「戦争体験」コーナーでもー

田岡・四十年代女性

いつもネットで読み、特に「戦争体験」はブ  
リントアウトして子供 (中学一年) にも読ませ  
ています (難しい漢字にはフリガナが付いてい  
るのでありがたいです)。坂本幸子さんの「戦争  
体験」の最終回 (前編1三編) を読んで、戦後  
も大変な苦労を経験されたことについて、口苦  
さまでした。「心の中で頭を下げました。  
坂本さんご自身も「我ながら、そういう辛い歳  
月を乗り越え、ようやく生きていけたかも

のどろどろで「思ひます」と語られていますが、心底からの実感に違ひありません。

私には戦争体験も戦後の苦悶もありませんが、坂本さんが体験された空襲疎開そくかんでの心身と空襲の恐怖なご共々、「いつした戦後の苦悶もやはり戦争がもたらしたものだ」と改めて思いました。本当に戦争にいつのは苦しみと悲しみばかり生み出して、それも一瞬ではなく長期間、一回りしていつをもたらしてません。

今、日本の国が再び戦争へ向かって進んでいくと聞くと心が配っていますが、こんな時だからこそ、実際に戦争を体験した方たちのお話にじっくり耳を傾け、平和のありがたみを感じ、守っていく必要があると思えます。お話を記事にするのは大変でしょうが、戦争の恐ろげなならない限り、このコーナーがいつまでも続くことを願っています。

## 「原爆と戦争展」港区へ

海濱・五十年代男性

「力合わせ平和な日本を 大正区で『原爆と戦争展』活況」(前頁11頁)を読みました。自公政

権による戦争への暴走に国民の危惧が高まっていた時期、港区の隣の大正区では平和への取り組みが毎年着実に進んでいくように感銘を受けました。その中で、①戦後世代の参観が目立った②再び戦争へ向かう現在の情勢に反応した感想が多かった③被爆者が使命感を持って自らの体験を語った一などの特徴が見られた記事にありました。そのことも素晴らしいことだと感じました。「継続は力」といいますが、港区でもぜひこれに負けなような取り組みを期待しています。

編集部から 港区でも毎年八月に南市岡で、NPOみなと主催による「大空襲の体験を語る集い」が開催されています。今年は10日開催です。次回の記事掲載予定です。

## 投稿欄の質の高さと感心

海濱・五十年代男性

ネット読者です。毎朝感心させられるのは、読者投稿欄の質の高さです。本格的な「田舎」のちよっぴな文章でも「おっ」を口を

張る内容があります。

いつも最初に掲げられている勝部泰臣さんの文面は、時々为社会情勢に鋭く切り込ま、しかも高齢者ならではの温かな味わいがあり、さすがにトップを飾るだけの文章力の確かさを感じます。15頁(15頁)では小西正敏さんの「民間出身の公募校長は必要か?」との問いかけや、住之江区男性の「あまりひどい大阪市の生活保護行政」との警鐘が、心に響き、また考えさせられました。

大新聞の投稿欄にも目を通しますが、それらにも引けを取りません。「みなとサロンのタイトルにふさわしい場になっていると感じます。もちろん他の一般記事も面白いため、内容が豊か、だから読者の質も高いのだと思えます。15日までは前半の硬派記事も読み応えがありました。自分としては白岩高庫「情の夫婦月」の演劇評(三三頁)色物を明へていっけが素晴らしいと思いました(余実際に観劇してはいませんが、記事だけでもき居の面白さは充分伝わっています)。

# 「おどろおどろしい」

今月の提言者

おおの  
大野 ひろ子 さん (南市岡)



## 「命の谷」の社会へ！

### 貧しい日本の社会保障、根本転換を

私たちが海沿い同南労会支部は、港区の医療機関での長年にわたる労働運動の経験を生かし、「闘争労働運動の再興」と「働く者の医療・介護の実現」のため活動していきますが、その中でも市民の脈々から様々な相談が寄せられていきます。

「おどろおどろしい」が届いたNさん（井天在住）からの手紙には、現代社会の根本的矛盾に迫る重要な内容が含まれていましたので、「本人の了解を得て」この欄で紹介させて頂くと共に、それに対する当支部からの返信を「提言」として投稿させて頂きました。

#### 〈Nさんからの手紙〉

我が家の女性陣が「介護と医療」に関わっている上、私自身がその年代に達しており、決して他人ごととは思えないことから、この間に報じられた「認知症で徘徊<sup>は徘徊</sup>し、保護された」事故に遭遇して死した」などの事件が身につきまされました。その後、群馬県と大阪府では、放送を見て家族が乗り出し、対面したという新聞記事に喜びを感じたものでした。特に、大阪市の事件は家内の勤務する施設の入居者だっただけに、身近に感じました。

一方、群馬県の事案では、放送を見た家族が対面を果たしたのですが、「要介護5」と認定されていて、意識疎通の出来ない状態だそうです。それでも必死になつて探っていた家族としての悔みを感じています。

だがここで私が問題にしたいのは、同県の館林市<sup>は</sup>の担当者が「本人や家族に資産があると判明した場合、市が立て替えた費用の返済を願う」するのが原則」として七年分の費用約一千万円を家族に請求するとの報道（五月十五日の新聞から）。「これはびびりましたまげたものです（後日）今回は請求しないと決定しましたが、市の言い争いが止論なのでしようか？」

そこへえば、各戸屋では「認知症の患者が列車にはわられる」事故があり、その損害を「R」が家族に申請し、家族は裁判で争っているとか。こんな事例が今後も続くような気がしてなりません。決して対岸の火事ではなく、いつ我が身に襲い掛かるのか、何がいいのか、よく分からなくなりました。

#### 〈海沿い同南労会支部より〉

「命の谷」「何れもカネ、カネ、カネ。世の中がどうなっているかに根本的な問題があるのではないか。」

#### ◆「介護を苦つけに受けた」「介護保険」

まだ1000年ほどきた介護保険制度。「介護が自由に選べない」「誰しも事業かやむを得ない」

え制度やん」そう思っている方も多いかも。私たちが介護事業を運営しているのもこのお陰？やけど、この制度が介護を金もつけの手段におとめたことには否定できません。その象徴が、異業種の大企業が参入して有料老人ホームなどで介護保険から報酬を吸い上げ大もつけしている介護ビジネスです。

介護は物の売り買いとは違います。人間の命と尊厳の最後の砦です。金がかかって当たり前本質的に効率や利潤で計れる世界ではありません。だから税金でまかなうことが基本であり、当然なのです。今、私たちは改めてこの認識を強くもつ必要があるのではないしょうか。

この制度がどうして行政は本来負うべき責務を驚くほど安い報酬で業者に丸投げ。その一方でリストアップ非正規雇用の増大を進めています。

介護や医療を含めて、本来、社会保障は《国民の権利》、それを保障するのが《国・行政の責務》です。この関係は戦後、憲法に明記されたその下に様々な法律が作られてきました。しかし介護保険法は、この憲法の基本をなし崩し的に壊す法律の典型だったと言えます。

### ◆憲法 五五を基本に

この社会保障の基本にすえられねばならないのが憲法 五五条。憲法全体が危ない今、なおのことしっかりと読み込んでおきたいと思います。

「①すべて国民は、健康で文化的な最低限度の生活を営む権利を有する。②国は、すべての生活部面について、社会福祉、社会保障及び公衆衛生の向上及び増進に努めなければならない」  
にも関わらず、日本は長らく福祉の貧困大国

でした。「お上<sup>かみ</sup>に<sup>かた</sup>よ<sup>ほ</sup>の<sup>ほ</sup>施<sup>し</sup>を脱<sup>は</sup>せ<sup>ず</sup>、救済制度をえ住民に知らせず、求められて初めて嫌々使わせる」等々、多くの問題が指摘されてきました。その上にも、生活保護の大改悪を突破口に福祉切り捨てが進められています。

### ◆劣悪な労働条件の改善と課題

福祉を担う労働者の低賃金・劣悪な労働条件も大きな問題です。歴史的・社会的な女性差別に深く根ざした問題です。この視点からも問題を見据<sup>す</sup>え、働く者の処遇改善の運動を前進させていかなない限り、福祉そのものも危うい状況が続いていきます。

### ◆非道なJPRと裁判所

一方、認知症の高齢者の事故で高額の損害賠償を家族に求めた裁判には、はらわたが煮えくり返りました。地裁・高裁ともJPRの訴えを認めがく然。JPRもJPRだが、裁判官はどの面<sup>めん</sup>で

判決文を書いたのでしょうか。  
まず思ったのは、事故にあった認知症の方の命が全く顧<sup>かえり</sup>みられていないこと。本人は被害者家族は八十歳をこえた遺族です。加害者が被害者に賠償請求とは本末転倒もはなはだしい。

しかもJPR。もともと国民の財産を乗っ取り、不当労働行為で労働者を殺し、首を切り、莫大な利潤を懐<sup>くわ</sup>こしてきた企業です。JPR東海は「JPR新幹線まで造ろうか」という巨大資本、簡単に傾<sup>かたむ</sup>くような経営状態ではありません。

### ◆問われる社会全体のあり方

同時に、命を守れなかった政治、社会保障制度、地域社会等々、社会全体のあり方が問われていると思います。介護する立場、受け身の身、被害者や加害者になる可能性、すべて今日、明日の我が身のことであります。

「金持の命」「命が一番」の社会をへんため、一緒に考え、力を合わせよう。

# オーク200破たんか！

小西 正敏さん（六二歳 甲）



## 市民の税金投入すべきか

### オーク200破たん処理に思う

「弁天駅前開発土地信託事業（オーク200）」が破たんし、その処理を巡って大阪高等裁判所で裁判が行なわれていましたが、七月十五日、大阪市は同裁判所の勧告を受け入れ、りそな銀行など三行に和解金八二七億円と違約損害金八億円、合わせて八四五億円を支払う旨の和解が成立しました。来年度から十年間、毎年

六四億円を支払うという条件ですが、これには当然、市民の税金が投入されます。

#### ◆バブル崩壊が破たんの原因か？

その、この事業破たんの原因について大阪市は「バブル期の計画だったこともあり、建物の仕様・内装等の高級化や資材の高騰などにより、建築費等の事業費が膨らみ、借入金が増加しました。他方、開業後にバブル経済が崩壊し、その後の長期の景気低迷により計画通りの賃料収入を得られなかったことなどから中略事業費の増加、その後の収入の減少が相まって今日の事態を招いた」と回答しています（七月三十一日付）。要するにバブル崩壊こそ原因があったとい

#### ◆銀行にも責任を問わなきゃ

い見解ですが、甘い見通しの元に村撰な計画を立て、しかも市民に十分な説明をしないまま実施に移し、結局は破たんしてしまっ、という事実上弁解の余地はないでしょう。ですから当時の市の関係者の責任究明は、市長が言ってもななく、当然なされるべきだと思います。

#### ◆市民生活に影響を及ぼさな

が、その一方で、その破たんのツケとしての和解金の支払いが、来年度以降の市予算、特に

福祉関係予算に多大な影響が出ないか、非常に心配しています。市の回答によれば、その財源は「必要な事業に影響が出ないよう、財政調整基金を活用する方向で内部調整している」とのことですが、その基金自体、市民の税金であることには変わりはない、市民生活に影響がないということには到底考えられないからでは。

あ さ や け

文豪・幸田露伴に次のような一文があります。「この吾人は古代に比して大なる幸福を有つてゐる。これはみな前人の植福の結果である」(努力論)。まあ万人が納得できる社会観でうやうや。かゝるはははの裏返してもまた真なりといふやいを得ませぬ▼「二六四五徳田支払いを大阪市が受諾」の新聞見出しが市民を驚かせたのは1910年。右記はあめゆひの「土地信託事業」(土地を一定期間ただで借り、その間に得た利益の一部を地主に渡す約束の事業)を市と結ぶオークションを準備して来た銀行が「利益が出なかつた」で借金半ばで出来たのは市のせいや「植福賠償を求めた裁判で、市が」分かります「した」のだという。これ「この市長は(この事業を認めただけ)議員の責任を求めぬ」といひつゝは、一体誰が悪いのか。事の経過を追ってみたいので整理してみましょう。①バブル期の日本に米国債を買わせるための形を金控を吸ひ上げため「米として事業をやつた」(日本政府の尻を叩いた米

政府・財界のそれに従つて)とどろどろ箱物をど地方を煽つた日本政府③それに応じて土地信託事業を進めた大阪市④それに乗つたもの失敗し、責任転嫁する銀行⑤その穴埋めに市民の血税を投じて、その財界奉仕の姿勢を「まかされた」議員を叩く市長▼「この見いへんや、不幸や悪は単純でもバブルでもなへん、つばは複合的・重層的であり、露伴流「言はず」(この)我々は大きな不幸を有つてゐる。これはみな前人の植福の結果といふもの」といひつゝになつてしまひか。そしてその結果を「番被るのが我々庶民であり、その恩恵(「一番治すのが最初」)を植えた者。大阪で責任を擦り合つてゐる、彼らは海の向い「いや、吸ひ上げた巨費を更なる諸けへん(正)とてごんどのいす▼さて、先の露伴は回書で次のようにも続けています。「吾人は吾人が野獣たるを甘んぜざる立場よりして福を植えた」。しかも私たちがは単なる動物物種になつたために「善を植むたいのいもつて、必ずしも将来の幸福を判断できないいなくとも構わなごのだから」。余りにも悪い不幸が積もり、善も幸福も埋もれてしまひかの如き現代。「この辺りの人生観で自

分を納得させない精神が持たんよつたな気もしますが、はして読者諸賢の「見解を如何に」。

× × × × × × × ×

「田だ黒だ」と喧嘩はおおよして、白いつつ字も墨で書く」(な都々逸が謡わねる日本でも、あのサッカーW杯では異常なニッポンゴール、揚げ句に惨敗。未だに責任論が燻つています。それでも日本はまじな方▼サポーター同士が喧嘩するやら、優勝を逃した国が荒れるやら、敗戦シミックの女性が自殺するやら、世界の輿論はまじに狂気の域。「サッカーで世界は」この「P」も聖「民族間の溝は」層深まら、おまけにエネルギーの莫大な消費。あれを医療・福祉などに回せばいいわけだが、いぶかひだつていふ「いづれに」つても「高ガスホーン」の文字通り高を括つてゐる、こまごこ世界戦争になつてもなる兼ねませぬ。「こはやはは五輪の祖」クーベルタンの名詞「参加する」(「職業的」)「今一度、世界ががががの返りかなごいふ」。何、言葉が硬ごつ、おなごいふ「こはは都々逸」締りまごいふ。「田だ黒だ」と喧嘩はおおよして「ボ」は田ん黒やがな。お後かよごいふ。

# 波除小が貴録の五連覇

## 区Pバレー 16チーム熱戦



→区内の全小中学校から十六チームが参加して開かれた第四十六回港区PTTA親善女子バレーボール大会(写真は決勝戦)は七月二十七日

「バレーボールを通じて各校PTTA間の親睦と教育の質の向上を」と港区PTTA親善女子バレーボール大会が七月二十七日(日)、港スポーツセンター(田中三丁目)で開かれました。四十八回目。港区PTTA協議会が主催、港区教育親和会が後援。十八チームが熱戦を繰り広げ、波除小が優勝。三先小が準優勝を飾りました。

### ● 会長や区長が選手を激励

開会式は港区PTTA協議会・山本久美子副会長(市岡中P副会長)が司会。稲生一博(いなわかしゅ)港中P会長が主催者あいさつに立ち、「口頃の練習の成果を発揮して熱戦を展開されると共に、その中で親睦を深められますように」と選手たちを激励。その上、「子供たちの明るい生活で健全育成のため力を合わせましょう」とPTTA活動への一層の協力を呼びかけました。

来賓の田端向伸(たはたむかしのぶ)・港区長は「常田頃は教育分野への理解と協力を頂き、ありがとうございました」と区政協力への感謝を述べた上で、「気温が三十七度を超えるなど連日の苛酷な環境の中で、今日は口頃の成果を発揮し、勝負にも少しはこだわりながら楽しくプレーを。こうした

「主催者あいさつをする稲生一博・港区PTTA協議会会長(バックは審判団として運営を支えた港区バレーボール連盟の審判員)と、爽やかに宣誓する市岡東中学校PTTAチームの山下美香主将」



活動がPTTA活動の底上げと教育の質の向上につながるはず」と選手たちを激励しました。

同じく来賓の港区教育親和会・山本高雄副会長は「練習の成果を発揮して安全で有意義な大会に」と選手を励ますと共に、「こうした活動を通じて教育親和会入会などの形で教育への理解が一層深まることを期待します」と訴えました。

### ● 「喜びと感謝」の爽やか宣誓

選手宣誓では市岡東中PTTAチームの山下美香主将が「私たちが選手一同は、仲間と共にバレー

「ボールでできる喜びを胸に、運営関係者の皆さん、審判などで支えて下さる港区バレーボール連盟の皆さん、さらには家族の協力にも感謝しながら、今日一日、全力でプレーすることを誓います」と、喜びと感謝に満ちた宣誓を行ない、会場に爽やかな空気を送り込みました。

また港区バレーボール連盟の数下俊文会長は「精一杯の審判で大会を支えたい。怪我のないよう気を付けながらも、熱いプレーを期待しています」と選手たちを激励しました。

### ●懸念の攻防、白熱の決勝戦

大会はトーナメント形式で進行。市岡中、港中、築港中をいずれもストレート（対〇）で降した三先小と、池島小、市岡小、八幡屋小をいずれもストレートで降した波除小が決勝に進出、昨年と同じ顔合わせとなりました。

午後三時半頃に始まった決勝戦では、両チームとも四試合目であって疲れがピークに達する中、ミスにも声をかけて励まし合っているながら白熱のプレーを繰り広げましたが、西江裕子主将を中心に、サーブやサーブカットからトス、アタックへと流れるような連係が最後まで崩れず、

←五連覇に笑顔弾ける波除小Pチーム（後列右端は区P協 稲生会長、左端は波除小P・宇都宮幹人会長、その右は区バレー連・数下会長）



四枚アタッカー（エース北川を軸とする広瀬・寄川・舩威の名選手）にボールを集めて効果的に得点を重ねた波除小が、二十一対十四、二十一対十と連取して危なげなく勝利を収めました。どこでもボールを追う、厳しいスパイクにもひるまない、ミスしても引きずらない、冷静に相手の隙を突く、無駄な動きをしないなど、全体として精神力の強さが光りました。

一方の三先小は高宮城 睦主将を中心に、一年前から練習を重ねたクイックアタックや、持ち味の強力サーブなどで懸命に追撃を図りましたが、レシーブやつなぎでアーシーミスが連続するなど、攻守でリズムに乗れないままゲームセット。層の厚い攻撃力（鐘搗・井上・長谷川・高宮城・赤木の各選手から成る五枚アタッカー）を生かすことができませんでした。

### ●築港中と八幡屋小が二位

波除小は五連覇。平成元々八年度に未到の八連覇を達成して黄金時代を築いたOBらのねぎらいを受けていました。優勝一王一回は大会史上断トツの一位。OBの娘さんも活躍するなど、世代を継いでバレーボールを愛する地域の伝統

の力が生きた、かんたんに 貴祿の優勝でした。

一方の三先小は二年連続五度目の準優勝。勝てば十二年ぶり二回目の優勝といことので、決勝ではOBや学校関係者が声を張り上げて応援しましたが、一歩届きませんでした。

三位は築港中と八幡屋小。他チーム（市岡東中、港晴小、港南中、港中、築港小、市岡中、池島小、磯路小、市岡小、田中小、井大小、南市岡小）順不同も練習の成果を発揮して健闘。敗れたあとも最後まで、様々な役割を担って運営に協力しました。

### ●優勝チームは西ブロック大会へ

閉会式では山本副会長の司会のもと、稻生会長が三位までのチームに賞状やトロフィーや賞品（バレーボール）を授与。宮本隆司副会長（池島小P会長）が講師に立ち、港区バレーボール連盟や大阪府柔道整復師会など運営協力者に感謝を述べると共に、「ストレート決着が多かったものの、どのチームも最後までボールを追いかけるなど、「つなぐプレー」が随所に見られ、緊張感ある試合が続いたのが印象的だった。こうしたつなぐ力はPTA活動にも重要だ」と選手

たちの健闘を称賛。優勝の波除小については「フレッシャーをはねのけての価値ある五連覇。市大会では港区代表として優勝めざして頑張ったほしい」と期待を述べ、最後に、来年の開催や単位PTA活動に対する協力を呼びかけました。

なお、この大会は大阪市PTA協議会主催の市大会（采年 月）予選を兼ね、優勝チームはまず西ブロック大会（十一月）突破を目指すこととなります。

### ●六連覇へ「全選手レベルアップを」

優勝した波除小学校PTAチームは神原まきえ正校監督のもと、同校で毎千曜、各二時間の練習を重ねてきました。選手たちの年齢幅は十歳代〜四十歳代。西江主将は「気持ちを一つに五連覇しよう」と意気込みに出場し、その通りになって、とても嬉しいです。サーブ、サーブカットからトス、スパイクへの流れを作ることがポイントに練習を重ねてきましたが、それがどの試合でも生きました。来年まではメンバーの入れ替わりがないので六連覇を目指し、全選手がどのポジションでもこなせるよう全体的なレベルアップを図っていきたい」と早くも次大会

を見据えています。

### ●来年へ「積み上げたもの勝ち」

一方、準優勝だった三先小学校PTAチームは清水聖昭監督のもと、同校で週一回、各時間の練習を重ねてきました。選手たちの年齢幅



→ 準優勝に爽やかな笑顔の三先小Pチーム（後列右端は区P協の山本久美子・宮本隆司副会長、同左端は小松茂・三先小P会長）

は二十歳代〜四十歳代。高宮城主将は「今年こそは優勝を」と意気込んで出場しましたが、最後は美力の差が出てしまい、準優勝は嬉しいさ四割、悔しさ六割といったところ。個々人のサーブやサーブカットのレベルアップ、クイックの習熟などを重点に練習してきましたが、準決勝までストレートで勝ち上がったのはその成果として素直に嬉しく思います。来年に向けては三人が抜けるので、まずはメンバー補強。その上で、これまで積み上げたものをさらに磨いていきたい」と顔を引き締めていました。

●「人間性も素晴らしい」と感激

なお、この大会には港区バレーボール連盟審判員が全面的に協力。また大阪府柔道整復師会港支部から八木接骨院(港嘴)の八木良樹院長(ご)整骨院(田園)の桂剛院長が常駐し、捻挫肉離れなどを訴える十数人にテーピング、マッサージなどの応急処置を施し、選手たちの安全を支えました。一人は終了後、「応急処置を施した選手が試合後わざわざお礼を言いに来てくれた」とことを挙げ、「プレーが素晴らしい選手は人間性も素晴らしい」と感激していました。

スポーツ

夏空の下で波しぶき

大阪港カッターレース、港区勢も健闘



→ 強烈な日差しの下で六十チームが波しぶきをあげた「大阪港カッターレース」は七月二十日(写真は女子一回戦のスタート風景)

大阪の夏の風物詩となった「大阪港カッターレース」が七月二十日に天保山岸壁前面海域で開催されました(大阪港みなとまつり)の二環。実行委主催。二十五回目。六十チーム(男子四十四、女子十八)が参加、うち港区からは十五チーム(男子十三、女子二)が出場。梅雨明け前の強烈な日差しの下、波しぶきをあげながらカッターを漕ぎました。

競技はトーナメント方式で行なわれ、午前九時過ぎにスタート。男子は五回戦、女子は三回戦に及び熱戦が午後四時前まで続き、結果、男子はチャレンジ権(神戸市)が優勝、女子はM Y MOTHERS LADIES(四日市)が優勝を飾りました。

●港区女子チームに特別賞

港区から出場した轟大丸(市民団体)、遊澤(遊澤倉庫株)、近畿レインボウ(近畿港運株)、海事検定ドルフィンス(日本海事検定協会大阪第一)、住友倉庫カッターチーム(株住友倉庫)、MAGUCHI CUTTER CLUB(株間口、間口運輸株)、SKマリンスターズ(一般財団法人新日本検定協会、ドラゴンスポーツ)

「カ一杯オールを漕ぐ女子チーム」と、並走しながら声援を送る遊覧船サンタマリア号



ッ、ドラゴンルーキーズ、ドラゴンファイターズ(株辰口商会、海遊館サザンクロス(株海遊館、日本パナユーズ(日本パナユーズ(株)、WORLD ARMS (大阪中港造船) 以上男子、クイーンリバー(株辰口商会、住友倉庫スーパーレディーズ(株住友倉庫) 以上女子も練習の成果を發揮して健闘しました。

このうち女子の住友倉庫スーパーレディーズには大阪市港造船局長特別賞が、クイーンリバーにはコスチューム賞が、いずれも特別賞(順位は関係なく来賓らが選考)として贈られました。

●「気持ちいい」疾走の快感

一回戦終了後、(株住友倉庫(港区海岸通)の

社員チーム「住友倉庫カッターボーイズ」の一員として出場した有吉良太郎さん(三三)堺市在住と福家優生さん(二二)神戸市在住は「チームは長い歴史があり、部員も二世代を中心に層が厚く、この大会にも最初から出場していますが、僕たちは今春入社したばかりなので初めての参加です。会社では週に一回練習してきました。この競技は力だけでなく、タイミングや息が大事。皆の気持ちが一つになって疾走した時の快感は何とも言えません。今日は特に目標を掲げることなく、行けるところまで行く」と思っています」と話していました。

また別のチームの三十代女性は「このレースは、普段違う所で働く人たちが夏空の下でカ一杯オールを漕いで交流できる、とても素晴らしい催し。勝っても負けても楽しく、これからも毎年続けて欲しいです」と話していました。

岸壁では、選手に声援を送る家族、テントの中で寝転ぶ選手、海をバックに記念写真を撮るチームなどが至る所に見られ、この催しが、単なる競技の場ではなく、人々の交流の場にもなっているのが感じられました。

スポーツ短信

●大阪・港水イース少年硬式野球

七月十二日(土)に合宿を兼ねて有田大会に出場。一回戦は庄勝で突破。一回戦は悪天候とも苦闘の末、敗戦。三年生は残り一試合。最後の夏となる京都大会和歌山大会での悔いなきプレーをめざし、暑さの中で猛練習。硬式野球に興味のある小学生の体験練習・入部説明随時。 〇八五七一・六七五三スポーツさん又は〇九〇・八三八五・四八二五 香西。

●みなとプロレス&P「夏祭りプロレス」

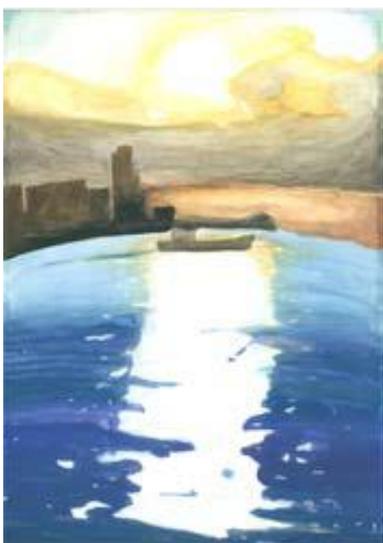
プロレスで地域を元気に！「青少年に正義感と勇気を！」と活動する港区のプロレス団体「みなとプロレス」(代表:ミッキー隼野さん)の第四回特別興行。八月十七日(日)十三時から港区民センター(弁天二一・五、〇八五七二一・〇〇二〇)で。入場無料。正義派(ミッキー隼野)ジュニア(世なご)と悪漢(ティアプロ)などの対決をメインに、プロレス二二試合、歌謡ショー、ちびっこプロレス体験タイム、模擬店(オール百田)などを企画。問い合わせはH.E.V.O. Unit i o o c c (企画) 〇八〇・一三〇六六・〇八三九へ。

# 港の夕景 幻想的Ⅰ

## 築港中の佐布さん 海の絵画コンク入賞

海への関心を高めるため毎年実施されている「中学生海の絵画コンクール」の近畿海事広報協会主催で築港中学校三年生の佐布琴加さんが入賞、港区民の喜びとなっています。

入賞したのは近畿一田の五八校・三三三三点の応募から選ばれた四人(金賞一人、銀賞二人、



→大阪港の中央突堤から見た夕景を幻想的に描

き、「中学生海の絵画コンクール」で入賞した

築港中学校・佐布琴加さんの『大阪港の海』

銅賞八人、佳作十七、特別賞一、外航商船賞十三人。このうち佐布さんは大阪港中央突堤から見た夕景を幻想的に描いた『大阪港の海』Ⅱ写真Ⅱを出品し、みごと佳作に選ばれました。

この作品は、同校美術部(安永佳世顧問)に所属する佐布さんが一学期の部活動で描いたもの。夕の夕空を背景に、遠くには防波堤や船がシルエットのように重なり、まだ青みを残した海面には夕陽がきらきらと反射する様子が、海の静寂を感じさせ、観る者を幻想的な気分へと引きこめます。

### ●ダイヤモンドポイントから

同校では一月下旬の美術の授業で「港区の観光ポスターを木版画で制作しよう」と色々な場所を撮影したのですが、佐布さんはその中から、大阪港中央突堤の「ダイヤモンドポイント」の夕陽が一番美しく見える地帯から夕陽をバックに一隻の船が通過するタイムミングを捉えた一枚を選択。それを元に、美術室で六回に分け、計八時間ほどかけて仕上げました。

制作では「実際の色に近づける」とや「全体の色のバランス」に苦心しましたが、「大阪港

の美しさや、海も家族だということを、観る人にかけてほしい」と願いながら、ポスターカラーを淡彩で塗り重ねていったといいます。

### ●漫画家になりたい

入賞の報に美術部員たちは「いいなあ、家族は『おじやあ』とあれぞれ喜びを共にしてほしいんですが、佐布さん自身は嬉しそうに同時に「これから頑張ろう」と気持ちを引き締めたそうです。また賞品の図書カードは本好きな佐布さんへの思わぬプレゼントとなりました。

同校はこれで三年連続の入賞。安永顧問は「今年には写真撮影の段階から意図して海や築港地区の観光ポイントを選びましたが、佐布さんの絵にも海への愛情が感じられ、嬉しさもひとおです。この絵から築港地区の良さを感じて頂けたらなお嬉しい」と話していました。

学校では美術と社会科が好きで、将来は「漫画家になりたい」という佐布さん。今回の入賞によって、その心の画布には「漫画家」という夢がより一歩近づいて描かれたかもしれません。

なお入賞作品は同協会ホームページ(近畿海事広報協会)で検索可能で観ることができます。

おなと  
**会社**  
ものがたり

# 全国の鯉節が集合

甲一七三三

大鯉

Ⓛ



→鯉節問屋の原点を守り奮闘する大鯉スタッフ

「とにかく利益を上げて勝ち残れ！」と非情・不毛の競争がエスカレートする現代社会。その中で「まずは世のため人のため。利益はその結果」と企業活動本来の姿勢を崩さない誠実

企業を紹介するシリーズ。今回は鯉節問屋として六十数年の歴史を持つ「大鯉株式会社」甲一七三三。「日本の食文化と精神の継承」を掲げ、良心的な商法を守り続けてきたその足跡を辿り、現状を尋ね、今後の展望を問います。

というところで、やって来ました大鯉様。安治川にほど近い甲一丁目。「DAIKATSU」の大きな文字が目を引くシンプルな倉庫が聳えています。その巨大な空間には全国の生産地から送られてきた鯉節をコンピュータで保管・搬送する最新の管理システムが整備され、構内では声を掛け合いながらのきばきした入出荷作業。その前に建つ明るい事務所で、五代目社長・山中政彦さん（四七）に話を訊きました。

◆ 少数での作業の中にも活気を感じます。ここでほんの些細な仕事が行われているのよか。大鯉の取引先は全国に二五七。鹿児島県の枕崎や山川、熊本の本深、高知の土佐清水、それに

大鯉の仕入先は全国を網羅している。上は鹿児島県枕崎市、下は熊本県草町の製造家



宮崎、静岡、和歌山、三重、千葉など、国内の鯉節・雑節（鯖、鰯など鯉以外の節）の生産地をほぼ網羅しており、それらの各産地から届く、あらゆる種類の鯉節・雑節を保管し、顧客（卸売店）の注文に応じて出荷しています。

◆ なるほど。その大切な保管・搬送の役割を担うのが、この巨大な倉庫といっわけですね。はい。床面積は約二〇〇〇平方メートル。入荷した鯉節・雑節・魚粉末をコンピュータで管理し、自動搬送します。常時二万ケース以上をストックしていますが、その在庫量と種類は業界でもトップクラスだと自負しています。

◆ それは海産物についても同じに思います。それ、まわりのこうした現況に至るまでの大鯉の

歴史を簡単に教えて頂けませんか？

直接のルーツは一九四七年、私の祖父・山中政七と友人の下村保治郎氏が浪速区に設立した大阪鯉節(れいせつ)です。その後は資本金の増資や支店の新設、社名の変更、扱い商品の拡大、支店・営業所の設立などを重ね、九〇年に港区に移転現在に至っています。社長は初代の政七から下村氏(父政男、大西友次氏を経て二〇一一年私が五代目社長となりました)。

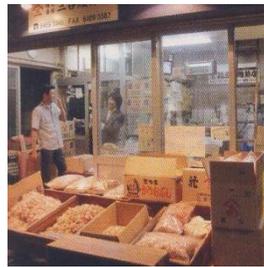
◆ **そのうち田中の礎を築かれた初代の政七について少しの間かせてもらえますか？**

山中政七は一九〇九年、三重県の伊勢に近い明星(なほせい)とつ小(こ)さな村に生まれました。子供時代、鯉節の行商をしていた父親(ちち)つまり私の曾祖父(おじい)と、兄弟の中で一番(いちばん)の手伝(てん)っていたのが政七で、父親の鬼(おに)へ大(お)八(やち)車を押し(お)して一緒に売り歩く(い)だけでなく、「心を込めて鯉節を磨(こ)け。人を手(て)に(て)買(か)い(か)い(か)い)でもらおうと思(おも)ったら、ええ加減(かへん)したらあかん」と商売(しやうばい)の心得(こころえ)も教(お)わったとい(い)います。

「大阪で勝負(しやうぶ)したい」とい(い)う言葉(ことば)を、自分(おれ)でもその決意(けつぎ)していた政七は、高等小(こうとうしょう)学校(がく)を終(お)えのちや大阪(おおさか)へ出(で)たのですが、当時(たうじ)、まだ近鉄(きんてつ)電車(でんしゃ)は

←大鯉の顧客 大阪木津卸売市場の平松鯉節店

①と大阪市中央卸売市場本場の三谷鯉節店②



なく、母親(はは)が風呂敷(ふろしき)のし(し)の(の)ば(ば)せ(せ)て(て)く(く)れ(れ)た(た)木(き)彫(彫)りの仏像(ぶつぞう)を道(みち)中(ちゆう)の慰(なぐさ)め(め)に、百(ひゃく)八(やち)十(じゅう)キ(き)もの道(みち)を何(なに)日もか(か)けて歩(あ)き通(とお)した(した)と聞(き)いてい(い)ます。

奉公(ほうこう)先の鯉節(れいせつ)問屋(もんや)「村瀬(むらせ)商店(しょうてん)」は西(にし)区(く)鞆(たも)にありましたが、政七(せいしち)は、厳(げん)しい上下(じやうげ)関係(かんけい)や重(おも)労働(らうどう)に苦(くる)しみながらも、持(も)ち前(まへ)の根(ね)性(じやう)と機(き)転(てん)さ(さ)ら(ら)に日(ひ)々(じつ)々の仕事(しごと)での発(はつ)見(み)をノ(の)ー(お)ート(と)に書(か)きとめ(め)るな(な)な(な)の地(ぢ)道(みち)な努(こ)力(りき)で、問(もん)屋(や)や商(しやう)品(ひん)や相(あ)場(ば)の知(ち)識(しき)を一(いち)こ(こ)し(し)身(み)に付(つ)け(け)てい(い)ったとい(い)います。

◆ **今(いま)はどんなふうな少年(しょうねん)期の(き)苦労(くろう)が(が)目(め)に(に)見(み)え(え)て(て)い(い)ます(す)。**

そんな奉公(ほうこう)先(さき)での努(こ)力(りき)を見(み)込ま(ま)れ、二(に)十(じゅう)一(いち)歳(さい)の時に引(ひ)き抜(ぬ)かれて中(ちゆう)央(やう)卸(しやく)売(ばい)市(し)場(ば)の社(しゃ)員(いん)にな(な)りました。が、独(どく)立(りつ)の夢(ゆめ)は捨(す)て(て)が(が)た(た)く、二(に)十(じゅう)七(しち)歳(さい)で結(むす)婚(こん)と同時(どうじ)に「山(やま)中(ちゆう)商(しやう)店(てん)」を開(ひら)業(ぎやう)。それ(それ)ま(ま)で(で)に

培(つちか)った信用(しんよう)を元(もと)手に、来(き)る日(ひ)も来(き)る日(ひ)も、早(はや)朝(あさ)から夜(よ)遅(おそ)くまで、働(はたら)きに働(はたら)いたとい(い)います。

やがて戦争(せんそう)の影(かげ)が忍(しの)び寄(よ)り、鯉節(れいせつ)業(ぎやう)界(かい)も統(とう)制(せい)下(か)に置(お)かれましたが、政七(せいしち)はそれ(それ)を逆(さか)手に取(と)り、当時(たうじ)名の知(ち)れた「大(お)阪(はん)鯉(れい)節(せつ)糊(こ)」を賞(しょう)収(しゆ)、大(お)きなブ(ブ)ランド(らんど)を手(て)に入(い)れるこ(こ)とが(が)でき(き)ました。しか(しか)し(し)そ(そ)う(う)した先(さき)見(み)性(じやう)や大(お)胆(たん)も平(たい)空(くう)しく、日本(にっぽん)は太平洋(たいへいやう)戦争(せんそう)に突(つ)入(いり)し、戦(いくさ)地(ち)に赴(おもむ)くこ(こ)と(と)そ(そ)な(な)か(か)つたもの、徴(てい)用(よう)に疲(つか)れ果(は)る、空(くう)襲(しゆう)で家(いへ)も社(しゃ)屋(や)も焼(や)き払(は)れた場(ば)け(け)に敗(は)戦(せん)。瓦(がれき)礫(れき)の中(ちゆう)で政七(せいしち)は全(ぜん)身(みん)の力(りき)が抜(ぬ)けるの(の)を感(か)じたとい(い)います。

◆ **戦争(せんそう)でそれ(それ)までの努(こ)力(りき)が台(たい)無(む)しにな(な)って(て)しま(しま)った訳(わけ)です(す)。そ(そ)う(う)か(か)ら(ら)い(い)再(さい)建(けん)を(を)。**

しか(しか)し、それ(それ)で(で)へ(へ)こ(こ)た(た)れ(れ)ない(ない)のが政七(せいしち)の政七(せいしち)たるこ(こ)と(と)で、一(いち)九(じゅう)四(し)七(しち)年(ねん)、同(どう)郷(きやう)で蔵(くら)下(か)の(の)下(か)村(むら)保(たへ)治(ぢ)郎(らう)氏(し)をパ(パ)ー(お)ート(と)ナ(な)ーに、浪(なみ)速(そく)区(く)で「大(お)阪(はん)鯉(れい)節(せつ)糊(こ)」を設(た)立(りつ)。鯉節(れいせつ)のほ(ほ)か、乾(かん)物(ぶつ)を中(ちゆう)心(しん)に食(しょく)料(りょう)品(ひん)なら(なら)何(なん)でも扱(あつか)いました。や(や)が(が)て統(とう)制(せい)経(けい)済(じ)は解(かい)除(じよ)され、四(し)九(じゅう)年(ねん)には西(にし)区(く)鞆(たも)に焼(や)け残(のこ)っていた立(た)派(は)な旧(きゅう)大(お)和(わ)銀(ぎん)行(ぎやう)ビル(ビル)を購(か)入(いり)して社(しゃ)屋(や)と(と)し(し)ました。

その(その)後(ご)、五(ご)〇(じゅう)〇(じゅう)一(いち)年(ねん)の朝(あ)鮮(せん)戦(せん)争(そう)特(とく)需(きよ)に(よ)る上(じやう)急(きゅう)伸(しん)、五(ご)五(ご)年(ねん)の新(しん)社(しゃ)屋(や)(鞆(たも)本(ほん)町(ちょう)落(らく)成(せい)な(な)を)

経て、五八年には得意先が相次ぎ倒産するといふ未曾有の危機に襲われましたが、「才覚の政七」「実直の下村」「算用の和泉(当時の会計)」「加えた三頭」、それに彼らを慕つ社員一丸の奮闘でV字回復を達成しました。

その後も幾つかの節目を経て今日に至つたこと、先にお話した通りです。因みに政七は八二年、七十四歳で他界しましたが、その年には既に社長職を下村氏へ譲つていました。

◆ **礎を築き、将来へのレールを敷くこの見事な鯉節人生という感じがします。**と、この港区民として気になるのは九〇年の港区への移転ですが、どんな事情があつたのでしょうか？

この質問は(笑)。直接は、旧社屋が交通の要所にあつたため積み降ろしの際に道路がからさがり、しょつちひひひ警察から取りかかるとのこと事情でした。そこで移転を余儀なくされた訳ですが、この際、後に「代田社」となる父・政男と代田氏なる大西氏を中心に、「これから鯉節問題」を求められるものは何か」を考へたのです。ついでに、しかも多くは鯉節は季節性の商品ですが、これを一年を通して供給したいという問題、従来の

「今日の礎を築いた山中政七・初代社長と下村保治郎氏(左が政七氏)①と、旧・大阪鯉節(株)の社屋(西区靫南通)②」いずれも社誌から



割があります。それを徹底すれば、食生活の洋風化や問屋不要論が叫ばれる中でも活路は開けるだろう、ならば新社屋には「在庫力とスピード」を持たせよう。そうして様々な工場見学や試行錯誤の末に完成させたのが、現在の「完全自動搬送の冷感倉庫」とのこと訳です。

◆ **戦争をはさんでの長い歴史が生んだ最新システム。感慨深いものがあります。**と、ここで歴代社長は業界発展にも関わりたいと思つていました…

はい、政七は四九年に「露細業者は互いに助け合つていかなあかん」と大阪鯉節類商工業協同組合設立の発起人になつたのを手始めに、五九年にはその理事長に、八〇年には全国の鯉節

業者をまとめる(社)日本鯉節協会会長に就きました。また下村氏も大阪鯉節類商工業協同組合理事長に、父・政男も全国鯉節類青年連絡協議会会長や大阪鯉節類商工業協同組合理事長を経て(社)日本鯉節協会会長に、大西氏も全国鯉節類青年連絡協議会会長に就き、私自身も〇八年から全国鯉節類青年連絡協議会会長を務めました。

◆ **それは、苦労も多かった。と、ご自身経営で業界活動の面は大変だと思つますが…**

確かに大変ですが、それは決して対立するものではなく、互いに補完し合い、相乗作用を及ぼしながら、結果として業界発展に貢献できたのではないかと思つています。因みに政七は紺綬褒章・藍綬褒章・勲五等双光旭日章を、下村氏と父・政男は黄綬褒章を、それぞれ受賞していますが、それは今言つたような姿勢で業界発展に尽力したことの国からの褒美だったのだと受け止めておきましょう。

◆ **納得です。その五代目社長は現在の経営状況をお伺いしたのですが、その前に「自身の経歴を簡単に教えて頂けませんか？」**

承知しました。(ついで)

# 故郷のため一生捧げの

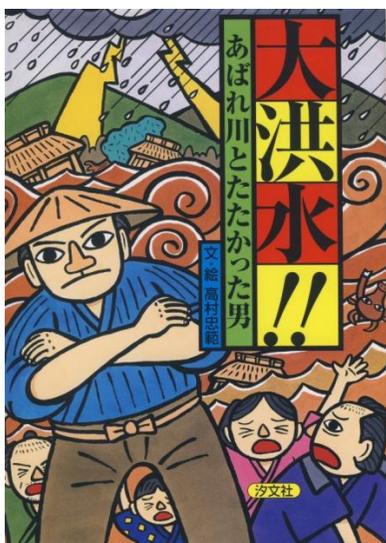
## 暴れ川と闘った男の話 『大洪水』

「故郷のため一生を捧げる生き方」に感動しました。「四年男」の「環境を守る」ことが防災にもなるの分かりました。「二十代母親」。

『大洪水』＝写真＝は「暴れ川と闘った男の話」として2011年出版以来、港区でも子供を中心に読まれ、反響を呼んでいます。

### ◆巻末に「あばれ川とたたかった男」

——江戸時代の終わり頃、遠江国（今の静岡県）の天竜川は大雨が降ると必ず大洪水を起す。家も田畑も呑み込みました。「いっしょで我儘をばばばごうごうや」。そんな人々の苦しみを見た金原明善といっしょに著者は「巻末」に「あばれ川とたたかった男」を載せました。「堤防のつくりがわかります。地主の父にお金を出してもらいいい村人の力も借り、自分も先頭に立ち働きます。しかし、やっとできて上がった、大雨が続くと川は暴れ出して、堤防は壊れ、また村はメチャメチャ」。



時代は明治に変わり、父も死んでしまった明善はもう一度いっしょに暮らします。そして気づいたのは「洪水の原因は上流にあり、そこへ木を植えれば雨水を吸い上げてくれ、氾濫を防げるかも」といふこと。「そんなこと何になる」とあざける人もいる中、協力者を増やしなから、気の遠くなるような事業が始まりました。雑草を焼き、岩をどけて杉や松の苗床を作り、三年目に山へ植えかえ、雑草を何度も刈りながら育てます。大雨で流れたら、また植え直します。

そして田畑は流れ、やがて、「おお、立派になつてくれたなあ」。太く大きく育った木々をなでる明善は、もう九十歳を越えていました。あはれど荒れ狂った天竜川は、山の木々が育つに

つれて暴れなくなり、それどころか穏やかな流れになって田畑をうるおし、村に豊かな恵みをもたらす川になっていたのです。「へん、へん」と後の指を指されても信じた道を歩き通した男が、地域と住民たちを救ったのでした——。

### ◆「防災や環境もまねてね」

文と絵はイラストレーターの高村忠範さん。色鮮やかな力強いイラストと、簡潔で分かりやすい文章が、世のため人のために生きる人生の健全さをくつきりと浮かび上がらせてます。

巻末には天竜川や時代や治水についての解説があり、明善の生き方と共に、環境や防災に有効な「里山」といふ考え方に注目させる内容になっています。「山に木を育て、田畑を耕し、綺麗な水を守る。そして自然や動物たちと人が共に生きる。それが里山」日本人は千年も昔から世界に誇れる環境をつくってきたのです」との一文に、著者・発行者の意図がうかがえます。

汐文社発行。一八〇〇円＋税。港区ではオリオン書房（八幡屋一六・一〇一、TEL・FAX六五七一一一〇四）などで取り寄せてもらえます。

みなど

人生

劇場

場

港区民の手記をもとに、地元在住の作家・青木健一さんがフィクションとしてつづいた。当地ドラマ。シリーズ第五弾は、築港在住の九十年代女性が七十数年前に経験した、はかなくも美しいラブ・ストーリー。

## ぼて丸の恋 (四)

(前号まで) 築港に一人暮らす九十過ぎの世津子は、ツイサービスから帰った春の夕方、地域新聞社長から昔の思い出を綴るための勧められ、遠い日が甦った。一愛媛県の浜に育った世津子は紡績工場で働いた後、大阪へ出、市岡ハラダイスに近い叔母の玉栄屋で働くようになった。昭和十七年春、「ぼて丸」と通称されるほど太った十九歳の世津子は、客でタウシー連転手の青年・平田から思わぬ誘いを受け、新緑の宝塚に遊んだ。ペン字で故郷の事なや喋り合った夢のよつな時間。しかしその翌朝ロロかひ平田は姿を見せ

なくなり、戦地へ赴く客が増えていった。そして秋も深まったため、日、仕事を終えて一階へ上がるついでに世津子を叔母が「ちよつ」と呼び止めた。世津子と同室のサッチャンが部屋へ上がるのを見届けた後、叔母は、ちよつど勤めから戻ってフロアにいた叔父(叔母の夫「目撃せし、自分は店を出た。)

### ♥ 平田は名集れ海兵団へ

平田と同じローヤルタウシーの運転手だった叔父は、制服のまま、世津子を台のそばの椅子に座らせ、自分も向かい合って腰かけ、制帽を台の上に置いて、煙草に火をつけながら、ちよつと硬い表情で話し始めた。

それ以降、平田は名集を受け、三日前の十月末に広島の大竹海兵団へ入隊した、という



「じいだった。何となくそんな予感かしていた世津子は」それでですか…」と小さな声で答えた。「自分を含めない」といつか寂しげに悲しげに、「今(日本が)大事な時だから仕方がない」という潔い諦めによって塞がれたのを感じた。しかしそのあとの言葉が世津子を打った。

### ♥ ゲーム取りなんか相手にするな

あのあと平田は職場の上司から「ゲーム取り(ジャード)で働く者の(じい)なんかを相手にしたらあかなくて」忠告をされた。しかし、その店に来られなくなった、というのだ。そのことを平田は職場からの出征時に叔父に打ち明け、「ぼて丸さんには本当に申し訳ないことをしてしまった」とひどく気がかりな様子だった。叔父は教えてくれた。

平田とは職場で一番親しく付き合ひ、また彼の誠実さに好感を持っていたがゆえに、恐ろしくあの日の世津子への誘いもそれとなく勧めたのではないかと思われる叔父は、「たぶん(同僚の)誰かが一人のことを告げ口しようとしたのだろう。今(官憲)の目も厳しいからな。それでいて、も、なんでゲーム取りがあかたねや。みんな楽

うげに遊んでるやないか！ 遊んで元氣田って  
るやないか！」と吐き捨てるやうに「さ、口  
アト一だけ点つてた頭上のシャントリアを  
見上げし煙を吐きながら「トチちやんせえの毒  
じなあ…」と呟くやうに「さ」。

### ♥ 戦争終ったから「おれはかたぬ」

そんな叔父の様子を世津子は呆然と見てい  
るしかなかったが、それに気付いた叔父は、も  
う一度世津子をまっすぐに見直して言った。「戦  
争が終ったけどまだかたぬ。日本が勝って…ま  
じ帰してあげなせう」。そこで「これはフシの勘  
やせう…」と吐き捨てたトチは「今の戦況が  
らしたら、トチちやんは恐らく南方へ行かされ  
るやない」と言っていた。

今トチは田舎の顔の階の部屋に入り、  
布団に身をよせ、おまじに世津子を見て、サ  
シちやんはあの晩、ごちのやうに寝てたか  
ないかと、自分も早々と布団に入り、かた  
かたの肩をゆするやうな音をこぼらせた  
あ、「おれはかたぬ」ボチちやんと枕元の  
スタンドを消して寝た。サチちやんの思  
いを感じながら、おれは世津子は涙を

まかせにしていた。枕が頬に冷たかった。昔の  
やわめくに紛れて、安治川の方角から微かに汽  
笛の音が流れてきたやうな気がした。

### ♥ 空襲の死、そこ…

翌年昭和十八年の春、まだ五十歳だった故  
郷の父が酒の飲み過ぎから血を吐き、あつけな  
くこの世を去った。そして、その悲しみも癒え  
ぬ昭和十九（一九四四）年正月には、都市空襲の  
恐れが多分に出てきたので、田舎の母からの手  
紙にも促されて、世津子は七年間世話になっ  
た叔母夫婦の元を去り、帰郷して隣の新居浜市  
の住友金屬の寮に入った。

幸い彼女の家族は、家でも職場でも、終戦ま  
で空襲の被害に直接遭うことはなかった。が、  
終戦から三年後に兄のレイテ島での戦病死を告  
知され、兄を知る近隣からの手厚い慰めに心癒



えれながらも、母や妹と共に長く落胆の淵に沈  
んだ。そして、その時なお消息不明とほごえ  
同じ南方へ向かったであらうあの平田も「兄と  
同じ運命を辿られたかもしれない」と悲しい予  
想を立て、母や妹には分からぬ切なさ、もどか  
しさを、ひたひたの背の胸をよびかけた。

### ♥ 戦後の飲食店を営む

そして戦後十年ほどは故郷で家族と一緒に  
浜の仕事で生計を立てていたが、昭和三十（一九  
五五）年春、妹が婿養子をもらったことで、何  
となく故郷に居場所を失ったように感じ、母の  
引き留めを振り切って、ひとり大阪へ出た。

幸い空襲を生き延びた叔母夫婦の口利きで港  
区築港の「トチヤード」職を得、その寮住みで  
貯めたお金を元手に昭和三十五（一九六〇）年春  
寿司店を開業。故郷の名をこめて「みやこ」と  
名付けたその店は、世津子の人好きな性格も幸  
い、好景気にも乗って、たいそう繁盛した。  
休みもとれないほどだったが、寿司職人や同郷  
の女の子を住み込ませ、時には同じ港区の夕凧  
からヤトナを呼んだらして乗り切った。

(つづ)

## 演劇ガイド

### ● あんがいのまの一座スタジオ公演『秋情れ寺（すま）』

前編『**「井」**』世の中、捨てる神あれば拾う神あり。しきじよどきてまつせ。角度を変えて眺めてみたら、なむや、そんなとやもったんかいな。やむと思えてへんじよが、ぎょつねんおまつせ「え？ 爺さんでつか。さあ、そのあとじつじつするんやら知りまへんけど、もうなほななとでもへんたびつてまつじよる。地獄でまた女子（おなし）の尻、追っ回してつかも知れまへんて」。大阪・下町の何気ない光景を優しく温かく、また面白く味わい深く描き取った直木賞作家・難波利三（なんばとしじゆ）さんの短編からあんがいのまる座長が演出。出演はくめくめゆん、ゆんゆん。

九月二十日(土)十四時、十八時 二十一日(日)十三時、十五時の四回公演。料金は前売 千円(同日「回通」券二千円)、当日 千五百円。詳細問い合わせや申し込みは会場の石炭倉庫(波除六・五・一八、JR弁天町駅から国道四二号を北へ直進、安治川堤防突き当たり右すべ。☎六五八一・〇六六四、チケット専用フリーダイヤル〇二二〇-三三四一-三九)へ。

## ライブ情報

### ● 八幡屋出身ロックドラマー 桐田勝治（きりたかつじ）さん 日

本のハードロックのトップを走り続ける人気バンドに所属。周りを元気づける灯台のようなミュージシャンに「演奏に魅了」。中学校出身。▽所属バンド「ガゴイル」の十六枚目のニューアルバム『**解識(げしき)『渦巻く太陽』直撃**』など十一曲が八月二十七日(水)に発売予定。三二四〇円。☎〇三-三三八一-九一八〇(フアー) ストセル▽九月二十日(火)祝 十八時四十五分から大阪・ESAKA MUSEEでガゴイルの「ニューアルバム発売記念ツアー」(詳細未定)。

☎六三八七-〇〇三〇▽九月二十日(火)祝 十一時半から大阪・NEAL LINEKでガゴイルの『**解識**』インスタイベント(トーク・握手・サイン会)。☎六六五一-二二三三。



→ 桐田勝治さん(左)とペドロさん(右)

### ● 三先のフォーク歌手ペドロさん 切断フラ

ザース(左手親指切断の共通体験を持つ)三人で結成やソロで温かなフォーク▽毎月第一・三木曜 二十時サ・セラー(中央区西心斎橋、☎六二二-二六四三七)▽毎月第二火曜 二十時かつおの遊び場(中央区宗右衛門町、☎〇九〇-五八八一-七〇一五)▽毎月第一火曜 二十時半ロージー(中央区西心斎橋、☎六二二三-三九九九)。

### ● 市国元町在住の音楽ユニット「花☆キヤラ」

ポップスから沖縄民謡まで生活に根ざした明るく前向きで分かりやすいオリジナルソング▽CD『マルグリータとトマトパスタ』『あなたらしくあたらしく』好評▽[http://www.o.c.n.e.jp/hannan23883](http://http://www.o.c.n.e.jp/hannan23883)

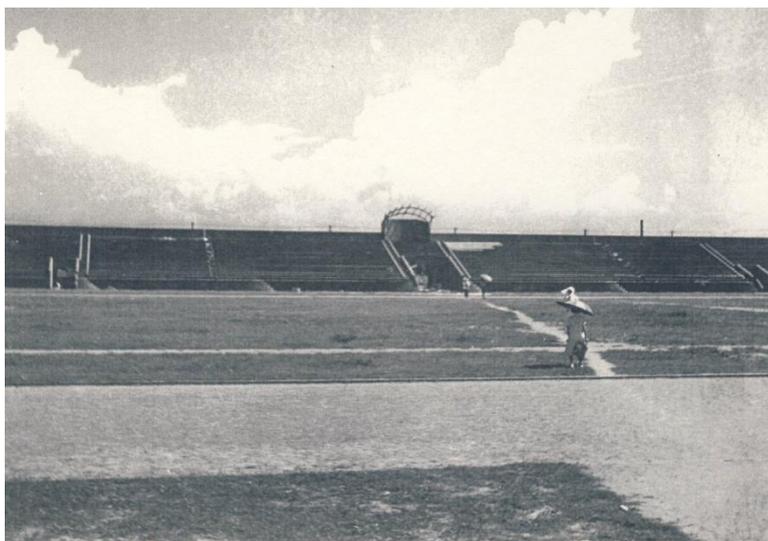


→ 花☆キヤラの演奏風景

な  
の  
か  
し  
の  
つ  
た  
し  
い  
ま  
む  
か  
し

写真で旅する港区あの日

▼…市立運動場（一九五〇年・田中）



第八回極東選手権競技大会が一九三三年五月に開かれるのに合わせて造られたのが「大阪市立運動場」でした。二百メートルの直線コース、一周四百メートルのトラック及びフィールド、座席七千超の有蓋スタンド、座席一万超の無蓋スタンド、五十メートルの水泳プール、庭球場、野球場などを備え、大正から昭和初期の近畿での大きな競技会場の大半がここを会場としました。第二次大戦中は大阪ガスに貸され、戦後返還。五年、日米大会のため五千万円で補修改造、さらに千九百万円を投じて第一種公認陸上競技場へ整備されました（『港区誌』『みなとと音』より）。

◆空襲犠牲者の死体が山積み

上の写真は一九五〇年七月、補修改造前の様子を、当時二十一歳の山本安孝さん（八五）（田中）が写したものです。山本さんは「とても広い運動場で、スタンドは高さ十メートル以上。戦中は空襲犠牲者の死体が山積みされ、戦後はグラウンドから骨が一杯出ました。花火大会が催されたこともありました」と当時を語ってくれました。

その後、五六年から運動場の東側が「国際見本市会場」になり、七一年には運動場が解体さ

←上と同位置（田中三丁目）から撮った市立運動場跡。現在は緑多い八幡屋公園に



れて「八幡屋交通公園」に。八五年には見本市会場が南港へ移転した上、交通公園の管理不充分もあり、一帯は長らく空き地状態が続きましたが、九三年策定の「八幡屋公園開発整備計画」が九七年に全工事完了、現在に至っています。

# 港の礎築いた先人に感謝

西村捨三翁の銅像前 厳肅で華やかに献花式



→大阪港発展の礎を築いた西村捨三翁に感謝を込めて厳肅かつ華やかに挙行された「西村捨三翁銅像献花式」は七月十五日、天保山公園

大阪港発展の礎いしずめを築いた先人に感謝。大阪港開港記念日の七月十五日朝、天保山公園で催された「西村捨三翁さいむらたけさん銅像献花式」には地域住民や港関係者、大阪市港湾局長や田端尚伸たがのひさのぶ、港区長など行政関係者、合わせて約百人が参加。清祓きよはらいや吹奏楽演奏も得て厳肅かつ華やかな雰囲気の中で献式が行なわれました。大阪港振興協会(官民一体で大阪港を振興させる活動の核となる公益社団法人)主催による恒例行事。

## ◆築港事業の功績を紹介

梅雨の晴れ間に港区の花・ひまわりが銅像前を美しく彩る中、午前九時半、築港中学校吹奏楽部の演奏(『銀河鉄道999』『恋するフオ―チュンクッキー』)で華やかに開云。

次いで大阪港振興協会職員が「大阪港は慶応四(一八六八)年七月十五日に開港しましたが、当時は安治川を中心とする河川港かせんこうであったため船舶の大型化に対応することは困難でした。そこで『大阪の繁栄は港から』という市民の熱望により、明治二十(一八九七)年に近代的な港灣を建設する築港事業に着手することになりました。その初代築港事務所長に迎えられたのが西

「献花式を華やかに盛り上げた築港中学校吹奏楽部のオープニング演奏(上)と、献花式に厳肅さを加えた港住吉神社の神官による清祓(下)



村捨三翁です。この築港事業により大阪港の骨格が形づくられ、今日の大阪港の繁栄につながっています。また毎年七月十五日を開港記念日とし、先人の偉大な足跡に敬意を表し、将来の大阪港の発展に向け決意を新たにする機会としています」と同翁の功績を簡潔に紹介しました。

その後、港住吉神社の神官が、災厄や穢れを取り除く神事清祓を実施。最後に再び築港中吹奏楽部の演奏(『輝ける時』)が爽やかに流れる中、参加者が次々と銅像前に花を捧げました。

## ◆「意義ある催し」と参加者

参加した藤家順さん(港区老人クラブ連合

会副会長・築港クラブ会長、江川忠利さん（一般社団法人大阪港クラブセンター専務理事）らは「毎年参加していますが、今年は演奏や清杯式も加わってさらに盛大に行なわれ、感動しました」「新しい住民も増える中、こうして折に触れて港区の歴史に思いをさせ、先人に感謝と敬意を捧げるには、とても意義あるイベント」と話していました。

また大阪港振興協会の担当者は「ここ数年は献化だけを行なっていました。今年は中学生や神社にも協力をお願いしたところ、快く引き受けて下さり、より厳粛かつ盛大に催すことができ感謝しています」と話していました。

◆ 築港工事に熱意 初代所長

西村捨三氏は一八四二（天保十四）年八月、旧・彦根藩（現在の滋賀県）の生まれ。大阪府知事、内務省土木局長、農商務次官などを歴任。北海道汽船会社の社長をしていた時、大阪の築港工事に強い熱意を持ち、「工事が始まったらいっしょでも社長を辞めて指揮をとる」と約束。大阪市の参事会員として待機。その熱意に動かされた市は破格の条件で同氏を「築港事務所初

代所長に迎えました。

同事務所は一八九七（明治三十）年九月、川口居留地に設けられ、十月には天保山砲台内で起工式が行なわれましたが、同氏は衣冠束帯（公卿の正装）に威儀を正し、行列を従えて所縁の神社に参拝、神の加護を祈って仕事を始めたと言われています。

◆ 苦難と非難の中で大棧橋完成

工事は、安治川河口と天津川河口から沖合に向かって二本の防波堤を築き、これに囲まれる海面のうち一〇〇万坪（約六六〇万平方メートル）を三〇尺（約一〇メートル）の深さに浚（しほ）深し、その土砂を利用して二五〇万坪（約四九五万平方メートル）



→ 西村捨三・初代築港事務所長①の尽力で完成した「築港大棧橋」の様子（昭和初期）②

の埋立地を造り、さらに海と陸を結び施設として大棧橋と「本の繫船突堤を築造する」というものでした。

しかし工事は思うように進まず、市民からは「巨費を使うな」とブーイング、さらには石材を運ぶ第五大島丸の沈没事故などもあって、苦難の連続でした。しかし「日本のために大阪港を造るんや」といっこそ所長の決意は動かず、遂に一九〇三（明治三十八）年八月、大棧橋は完成。が、完成後まもなく同翁は脳出血で倒れ、所長を辞職。一年後の一九〇八（明治四十）年一月、郷里・彦根で没しました。享年八十四。

◆ 日本の海運・貿易に巨大な貢献

このあと大阪港は、第一期築港工事（一九一八・一三七年）、第二期築港工事（一九二九・四九年）を経て名実ともに日本随一の港に発展。一九七〇年代にフェリーターミナルやコンテナ埠頭などが大阪南港に整備されるまで、約七十年に亘って日本の海運・貿易事業に巨大な貢献を果たしました。

（以上、歴史部分は港区役所発行『港区誌』『みなととて言』より抜粋・調整）

# 天保山の魅力再発見

## 落語家らが歴史と未来語り合う



→ 一区長・学芸員・落語家(右から)らが天保山を語り合った「港区築港・天保山魅力再発見創出講座」  
 座 〓七月二十一日、天保山客船ターミナルで

「築港・天保山の豊かな歴史を街の魅力創出につなげよう」と七月二十一日(海の日)午後、天保山客船ターミナル(海岸通)で「港区築港・天保山魅力再発見創出講座」が開催され、区民ら約百人が参加、落語家や学芸員が語る歴史に耳を傾け、地域の将来をきき合いました。港区役所、大阪港振興協会、築港・天保山にぎわいまちづくり実行委員会、花の海遊ロード美化協議会、築港地域活動協議会が主催。

まず田端尚伸港区長が「①天の時(広域行政)②地の利(歴史的・地理的魅力)③人の和(ハワフルな区民)」に恵まれたここ天保山の魅力創出のチャンス!」のイベントを通じて区民の皆様が温故知新を感じ、それをこのエリアの魅力創出へ繋げてほしい」と呼びかけました。

### ◆ 笑いと郷土愛の創作落語

市岡在住の落語家・桂福丸さん(四代目桂福丸治門下)は、「この日のために自ら創作した『天保山物語』と題する落語を初披露。家族旅行先に天保山を勧められた中年男が「日本で一番目に低い山」と知り、「中途半端やなあ。日本一を取り戻した」と二人組「TKB48(天保山削

「創作落語『天保山物語』で沸かせた桂福丸さん」と、「大阪港を築いた人びと」と題して築港の歴史を語る八木滋さん



る部隊・四十八歳という意味)」を結成し、闇夜にまざれて実行に移そうとするが、折しも現われた酔っ払い(実は大阪港の礎を築いた西村捨三翁の幽霊)に天保山の歴史を教えられ、削ることを思いとどまるというストーリー。笑いの中に歴史と人情と郷土愛を埋め込んでの熱演に、会場から盛大な拍手が送られました。

### ◆ 大阪港を築いた人々

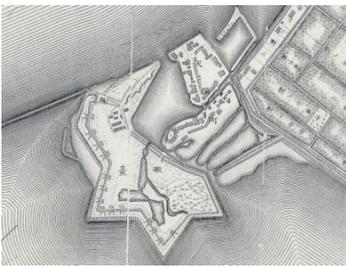
続いて登場した大阪歴史博物館学芸員・八木滋さんは、「大阪港を築いた人びとと安治川開削から大阪築港まで」と題して講演。①江戸初期に淀川の治水事業として河村瑞賢らが九条島を開削して安治川が造られ、その際の土砂で瑞賢山(弁天五丁目辺り)ができた②江戸後期

に洪水対策として民間から金や人手を募って大がかりな川浚（うん）えがイベント的に行なわれ、その土砂で天保山（高さ二十ト）超（こ）えができた③幕末には異国船対策として天保山周辺に砲台や台場（だいば）が造られた④明治期には私営の「天保山遊園」が造られ、潮湯（うし）海水温泉（かいすい）や魚釣り（うしづり）で賑わった⑤その後「エ・シー」から外国人技師（ぎし）の力も得て西村捨三（しんぞう）らが築港（けんこう）事業を進め、大棧橋（おほいせんきょう）や突堤（つくだい）が完成した⑥昭和戦前期には大阪港の貨物取扱量は日本一となったが、昭和四十年代以降のコンテナ普及で港機能は南港へ移った⑦「築港地区の歴史を辿り、最後「新田地」先「砂捨場」島勝地「軍事施設」島勝地と形を変えながら港づくりが進んできた」とその概観を提示しました。

◆「トークショー」で将来展望も

このあと、以上の三人にまちづくりプロジェクト「サー・山納（やまのり）洋（やう）さん（大阪ガス株近畿圏部）を交えてトークショーが行なわれました。この中では「天保山公園」は戦中の陸軍糧秣（りょうま）林（りん）廠（ちやう）で処分された家畜（かじゆう）の骨（ほね）を引（ひ）いたための獣魂碑（じゆうこんひ）が建（た）っている「戦後の一大遊園施設『みなと遊園』がシルバールになり、その後、今の天保山

第五コーポになった」「大阪港に活気があった時代、築港温泉（けんこう）には赤い人鉄粉（あかじんてつこ）を被（かぶ）った人、白い人（メリケン粉（メリケンこな）を被（か）った人、黒い人（石炭（いしたん）を担（か）いだ人が入浴（いりよく）した」「日露戦争（にっろ）第一次世界大戦（だいいち）が大阪港の発展（はつぜん）を促（うなが）す契機（きき）になった（山納さん）」「川浚（うん）えがお祭（まつり）的（てき）に行なわれたのは民衆（みんしゆう）の苦難（くなん）の捌（は）け口（くち）としての意味もあつた」「港住吉神社（みなとよしかみ）には川浚（うん）えの頃の様子を物語る貴重な石碑（いしひ）がたくさんある（八木さん）などの興味深い事実（じじつ）が語られると共に、「若い人がつくるべき新しいスポットの創出（そうしゅつ）を「福丸さん」既に豊富（ふゆふ）にある名物（なぶつ）を観光客（くわんかん）にもつとアピール（アピール）する必要がある（区長（くわうちやう）など）と地域のこ



→ 落語（らくご）や講演（くわんげん）に耳（みみ）を傾（か）ける参加者（さんかじやう）と、参加者（さんかじやう）に配（くわ）られた旧地図（きゅうちず）（天保山台場（てんぼさんだいば）と天保町（てんぼちやう））

れからへの提言（ていげん）も語られ、それらをまとめる形で山納さんが「つづいた豊（ゆたか）かな歴史（れきし）を街（まち）の発展（はつぜん）につなげていきましよう」と呼びかけました。また会場（かいじやう）から出された「落語（らくご）に出てきた」大阪市のマーク『濶標（みろくひょう）』の謂（い）は？』などの質問（しつもん）に対し、主催者（しゆさいしや）から「河口（がくわ）に港（みなと）が開（ひら）かれていた場合（ばいばう）、土砂（どさ）の堆積（たいせき）で船（ふね）の航行（かうかう）に危険（きけん）な場所が多（おほ）いため、比較的（ひかくてき）深い場所（ばしょ）である『濶（みろく）』との境界（けいがい）に並（なら）べて航路（かうろ）の目印（めじるし）としたものです」となどの説明（せつめい）がありました。

◆「西村捨三の功績（こうせき）もつと」

参加（さんか）した六十代（ろくじゅうだい）男性（なんせい）（田中（たなか）在住（じゆう））は「分（わ）かりやすい落語（らくご）や講演（くわんげん）で、これまで知らなかつた歴史（れきし）を楽し（たの）んで学（まな）びました。港区（みなとく）には良い物（もの）がたくさんあるの（べ）、「かわからは、それらをつなげ、生（な）かしていく努力（なうりょく）が求められます」。

また隣（りん）同士（どうし）に座（ま）つたという七十代（しちじゅうだい）男性（なんせい）（八幡（やわた）屋（や）在住（じゆう））と六十代（ろくじゅうだい）男性（なんせい）（田中（たなか）在住（じゆう））は終（おひ）つてもなかなか帰（か）りず、「西村（にしむら）捨三（しんぞう）さんはすごい人（ひと）や」といつ（いつ）かが改めて分（わ）かつた「その功績（こうせき）をもっと顕彰（けんしょう）、区民（くわみん）に知（し）らせるべきや」となると熱（あつ）っぽく語り合（あ）っていました。

# 平和のため

# 戦争体験

## 語り継ごう

### 今月の語り部

杉原麻子さん(九四)＝南市岡在住 ①



今田から、旧・満州(中国東北部)の新京現・長春(てんぎん)へ終戦を迎え、言語に絶する苦難を乗り越えて故国への引き揚げを果たした杉原麻子さん(九四)＝南市岡在住＝にその体験を語って

頂きます。この体験記は本紙第九一〜一〇二号(二〇〇七年三月〜二〇〇八年二月)に『みなと人生劇場 流れ星に願ひ託して』と題して連載された内容を「もう一度読みたい」といつ読者の希望に応え、再編集の上掲載するものです。



「待ってー待ってー」声を限りの叫びも空しく、汽車はポツと煙を吐き、私を残して地平線の彼方へ消え去りました。果然と立ち戻れず私……。内地へ一日も早く帰りたい、帰りたいとの一念が心の奥深く刻まれていて、満州から引き揚げてからも、そして今もなお繰り返す見る夢の一場面です。

あの戦争では全ての日本人がそれぞれに苦勞されたことお察し致します。命からがら戦禍を逃れた人、飢えに泣いた人、空襲で家を焼かれて果敢と立ち戻れた人々。そうした苦痛に満ちた体験を今日まで誰にも打ち明けるとなく、胸にしまったままの方も多くおられることと存じます。

国中が活気に溢れた戦後の高度成長からバブル景気の頃。バブル崩壊後の倒産と失業の時代。

そして生活は便利になったものの何かと心痛む事件の多い昨今。戦後も既に七十年近くになったこの時代に、もう一度あの頃を振り返り、未来のために正負の教訓を汲み取るのも意義あることではないかと考えました。当時の記憶を辿りつつ、一度とあの悲惨な歴史を繰り返してほしくないとの願いを込めて、引き揚げ期を中心とする私の体験を港新聞読者の皆様へ「戦争体験」についてお話しさせていただきます。

## 戦火拡大の中、満州へ

### 終戦までは夫と不自由なく

私は一九二〇(大正九)年八月、香川県大川郡石田村(現さぬき市)に八人兄弟姉妹の第三子(次女)として生まれました。家は米作農家で、養蚕もしていました。祖母を含め九人が一(屋根)暮らし、皆で桑の葉を摘み、納屋の蚕棚で蚕を育てました。

### ◆憧れの看護婦の道へ

一九三二(昭和七)年に満州事変が勃発、翌年から「満州国」建設が始まるなど、中国大陸

← 中国大陸で拡大する戦火（上は一九三二年の錦州占領、下は一九三四年完成の満州国庁舎）



での戦火が拡大する中、私は石田尋常小学校から県立大川高等女学校へ進み、一九三七（昭和十二）年、高松市の「日本赤十字看護看護婦養成所」に入學しました。当時人気の映画『愛染かづら』の主人公の看護婦姿に憧れたこともあって、迷わず看護の道を選んだのでした。

勉學に実習に忙しい毎日でしたが、休み時間にはいつも友達たちと、クローバーの広がる庭に出、幸福をむたらしめたいと四ツ葉を夢中で探したものでした。が、入學した年の夏は盧溝橋（ロウキョウ）での発砲事件から日中が全面戦争に突入。先輩たちは召集されて野戦病院や病院船などへ

赴きました。

養成所での二年間で看護婦資格を取得した私は、高松市の日本赤十字病院に勤務しました。この頃には同病院は陸軍病院となっており、私たちは来る日も来る日も、中国から次々と護送されて来る傷病兵の看護に追われました。

◆ 結婚して満州で楽しい生活

一年間の病院勤務の後、一九四一（昭和十六）年春に結婚、高松市内で式を挙げました。私は二十歳。相手は高松高校を出て「満州開拓」に意欲を燃やす青年でした。私たちは新婚早々、夫の仕事のため満州へ渡ることになりました。下関から船に乗り、朝鮮を経て落ち着いたの



→ 日赤病院で働いた二十歳の頃（一九四〇年）

← 二十歳で結婚し、高松市で挙式（一九四一年）



は、新京（現在の長春）という活気のある大きな都市でした。夫は官庁相手に雑貨などを納める商社に勤め、私たちはその社宅に入りました。私もしばらくは看護婦資格を生かして市立病院で働き、夫はその後独立して事業を営むようになりましたが、ともかく終戦近くまでは、まず不自由のない生活を送ることができたのでした。休日には一人で大車（タクシー）に運賃を払って乗る馬車（キャブ）を雇い、美しい新京の町を見物したのは楽しい思い出です。

そんな生活が急速に暗転したのは、戦争も終わりに近い一九四五（昭和二十）年に入ってからでした。

（つづ）

「三文化案内」

● 港図書館 ① 図書展示「こどものはんだな」

展＝昨年出版されたこどもの本の中から図書館  
 おすすめの本を展示。子どもだけでなく大人も  
 楽しめる本も。八月三十一日(日)まで開催中②  
 おたのしみ会＝毎週水曜日十五時半～十八時  
 じゅたんコーナーで。幼児を対象に、絵本の  
 読み聞かせや紙芝居、パネルシアター、手遊び  
 など。申込不要③あかちゃんのおたのしみ会＝  
 毎月第一金曜日(九月は五日)の十一時～十一時  
 半、じゅたんコーナーで。赤ちゃんと保護者  
 を対象に、赤ちゃんが絵本に親しめるよう工夫。  
 申込不要④図書ボランティア(高齢者施設)募集  
 中＝九月五日(金)締切。区内の特別養護老人ホ  
 ーム「ザイオン」「愛海園」が活動場所。九月十  
 九、二十六、十月十七、二十四日の四回(各金  
 曜)は十～十二時に大阪市中央図書館で受講  
 活動費など一回は港区内で。詳しくは大阪市  
 立図書館のホームページか港図書館まで▽☎六  
 五七六・二三四六。

● 関西フィルハーモニー管弦楽団『第259回

定期演奏会』

かしてベルリン・フィルを支え  
 指揮を担当するヴォルフラム・クリストさん  
 た名奏者が連続してタクトを握るスヘシャル正  
 画の第一弾。「ベルリン・フィルを支えた男だ  
 ち」：クリストの「ザ・グレイト」と題し、  
 ヴォルフラム・クリストさんが、シューベルト  
 の大交響曲や生誕百五十年のR・シユトフラス  
 ならには演奏機会が希少なドヴォルザーク作品  
 を贈る。演奏曲目は、①ドヴォルザーク：交響詩  
 「真昼の魔女」作品108②R・シユトフラス：  
 メタモルフォーゼン(変奏)③23の独奏弦楽  
 器のための④シューベルト：交響曲第8⑤⑨  
 番八長調D.944「ザ・グレイト」。九月二  
 十日(十七)十四時からザ・シンフォニーホール(J  
 R大阪環状線「福富駅」から北へ歩約七分)で。  
 S席五千円、A席四千円、B席三千円、学生席(一



十五歳以下)千円(全席指定・消費税込)。☎六五  
 七七・二三八一。

● 弁天町ORC200生涯学習センター「オー  
 ク大寄席」

旧・弁天町市民学習センター時  
 代から長年親しまれた人気イベントの再開第四  
 回、通算第三三六回。八月二十七日(水)十九時  
 ～二十時半に講堂で。出演は笑福亭學光さん  
 (徳島出身の落語家、笑福亭鶴光門下)と旭堂  
 南鱗さん(大阪出身の講談師、旭堂南稜門下)  
 をレギュラーに、今回は桂小梅さん(大阪市出  
 身、桂梅團治門下)、桂勢朝さん(伊勢市出身  
 桂米朝門下)も。先着百二十名。当日五百円、  
 前売四百円。オーク弁天寄席の会と同センター



→ 弁天町ORC200生涯学習センター「オー  
 ク弁天寄席」にレギュラー出演する落語家・笑  
 福亭學光さん①と講談師・旭堂南鱗さん②

が主催、ORCC200店舗会が協賛、ラジオ大阪が協力。☎六五七七・一四一〇。

● 井天町ORCC200生涯学習センター・夏休

みどもも「Hー笑い塾」**幽霊食堂はテンヤワンヤで大さわぎ**』「喜劇はチーワークと」ミニ二ヶーションやで「舞台の上で思い切りはじけようー」放送作家・砂川一茂カサハラさんの指導で夏休み特訓した子供たちがその成果を発表。真夜中だけオープンする食堂「くらメシ屋」を舞台に恐怖と笑いと人情が交錯する。八月二十一日(日)十四時から講堂で。観劇無料、申込不要。当日先着百名。☎六五七七・一四一〇。

● 井天町ORCC200生涯学習センター・井天

シネマ倶楽部『黄色いリボン』「心に残る名作映画を低料金で多くの市民に」と井天町市民学習センター時代に企画され、人気を博したイベントの再開第 回、通算第二十五回。長年務めた騎兵隊の退役を八日後に控えた老中尉ネイサンは最後の任務として上官の妻と姪の護送にあたるが、先住民の大軍に阻まれ失敗。古い友人である酋長との和平交渉に臨む。素朴ながらも胸を打ち酋長の言葉、そしてネイサ

←井天シネマ倶楽部『黄色いリボン』の一場面  
Ⓐと、アイリッシュバンド「イニシア」Ⓔ



ンの考えた「敵にも味方にも死者の出ない」作戦とは…。監督はジョン・フォード。出演はジョン・ウエイン、ジョアン・トルー他。一九四九年アメリカ、カラー、一〇三分。九月二十七日(土)十時と十四時から講堂で。料金は一人一回六百円(型五五百円)。定員は各回先着百名。当日十一時四十五分からロビーで無料ライブを予定。☎六五七七・一四一〇。

● 井天町ORCC200生涯学習センター・アイ

リッシュバンドがやってくる』オーストラリア・アプレッド最高のケルトバンド「イニシア」が様々な楽器を使ってユニークな演奏を披露。いきいきとした伝統的なアイルランド地方のダンスや音楽が楽しめる。八月十八日(土)

十四時開演。入場料千円(前売八百円)。先着百名。☎六五七七・一四一〇。

● 井天町ORCC200生涯学習センター・あ

ぼてのミニコンサート』「a・BOUT」は二〇〇五年結成。サックス一本と鍵盤・打楽器でポップ&カラフルな音楽を提供。演奏曲は『オブ・ラ・デイ、オブ・ラ・タ』『BRAVA!』『一画編成』他。八月二十四日(日)十五〜十六時に講堂で。入場料一人三百円(三歳以下無料、当日先着八十名。「この日は何がすぐ見えるか分からない」「うっすい」「なー」も)一回五百円。☎六五七七・一四一〇。

● シネマ・ウォ』年誕生の年記念 1924年

生まれの日本映画の「ニューズたち淡島千景の羽信子京マチ子高峰秀子」日本映画を輝かせた四女優が今年、生誕九十年を迎えた。宝塚歌劇出身の淡島千景は持ち前の明るさで気さくさで天性の女優と謳われた。同じく宝塚出身の羽信子は、百万ドルのえくぼから演技派へと転身。大阪松竹歌劇団出身の京マチ子は、グランプリ女優として日本女性の概念を変えた。子役から活躍した高峰秀子は数々の名作

「京マチコ出演『細雪』①と高峰秀子出演『虹を抱く処女』②の各一場面



で戦後ニッポンを励ました。競いながら人々を楽しませ元気づけたミュージクスたちの作品群から二十八本を八月二十九日まで上映中。八月十五日以降の京出演作品は『地獄門』『大阪の女』『細雪』『黒蜥蜴』。高峰出演作品は『樋口一葉』『虹を抱く処女』『細雪』『浮雲』『へちま』『渡り鳥いつ帰る』『鬼の棲む館』。当日一般千四百円。上映スケジュールなど詳細は同館(西区九条一・二〇・二四、地下鉄九条駅)⑥出口歩三分、☎八五八二一四二六へ。

●シネ・ヌーヴォー「生誕90年記念 増村保造の世界」戦後日本映画の新世代を代表する映画監督・増村保造の生誕九十周年を記念して八月二

十日〜九月二十六日に三十作品を特集上映。溝口健一や市川崑作品の助監督を経て一九五七年に『へちま』でデビュー。大映の専属監督として倒産七二年までに四十八本、フリーでも九本を監督。日本の情緒や奮闘気に抗い、主張し戦つ強烈な自我を持った「個人」を一貫して追求。性愛や資本主義、暴力などの欲望をスピード感溢れる語り口で狂気に近いレベルまで表現するといふ、日本映画では稀有なスタイルへと結実した。上映予定作品は、『へちま』『青空娘』『暖流』『巨人と玩具』『最高殊勲夫人』



→暴力渦巻く軍隊を強烈に皮肉った反戦映画の名作『兵隊やくざ』①と、若者の純愛を社会批判の中に描いた青春映画の傑作『遊び』②

『氾濫』『美貌』『罪めり』『闇を横切れ』『女経』『からつ風野郎』『偽大学生』『妻は告白する』『爛』『黒の試走車』『女の小箱』より、夫が見た『日記』『黒の超特急』『兵隊やくざ』『清作の妻』『刺青』『赤い天使』『痴人の愛』『セックスチエック』『第一の性』『盲獣』『女体』『でんきくらげ』『遊び』『大地の子守歌』『曾根崎心中』『この子の七つのお祝いに』。当日一般千四百円。上映スケジュールなど詳細は同館(西区九条一・二〇・二四、地下鉄九条駅)⑥出口歩三分、☎八五八二一四二六へ。



→過去の「ねこじゃらしのシャンテ☆カフェ」

●ねこじゃらしのシャンテ☆カフェ懐かしい歌に老いも若きも声を合わせる月例イベント。毎月第四土曜十四時から港近隣センター(八幡

屋一・四・二〇)で、不定期にゲストを迎え、リクエストを中心に約1時間、即興で進行。歌集賞等。参加費千円(税込)。第四回は八月二十三日。問い合わせはねじやらし音楽事務所(并天四・一・一・一・三〇二) ☎八五五六・六八二八、携帯〇九〇・一五九九・六八五五 喜多、<http://necojyara.sii.jp/moo.com/>または「ゆずりはの会」(☎六五七一・六八四三)まで。

●「繁栄商店街」**繁栄章駄天尊 夜店まつり** 商店街で地域の活性化を願い、地域の守り尊である「章駄天尊」を囲んで行なわれる毎夏の伝統行事の後編(前編は六月十三日)。「かき氷」「たまごせんべい」など懐かしさや目新しさを組み合わせた食べ物店(二〇百田)や、「ジャンボカラカラ」「コセ金魚すくい」など遊び心と工夫を凝らした遊び店(二〇百田)が並び、市岡小学校図書ボランティアによる「紙芝居」や、ジャズ名人・武口虎ノ介(ルーク)によるジャズコンサートも。八月二十九日(金)午後六時半〜八時半に同商店街アーケード下で。繁栄商店街と地域のみなさん(市岡地域活動協議会)

← 前回の夜店まつり①と去年の西明寺地藏盆②



が共催。同商店街は南市岡二丁目。問い合わせは同商店街振興組合(☎六五八二・〇三三六)と市館(〇四)まで。

●西明寺「地藏盆」 地藏盆は地藏を囲んで死者の冥福を祈ったり子供の安全・健康を願ったりする子供中心の伝統行事。西明寺では、紙しばい(紙芝居一座千の風)、バルーンパフォーマンス(MAMA, S HOUSE)、ゆるキャラパフォーマンス(みなん、くしゃきよなど)、ねじやらし手話コンサート(美人ソプラノデユオ、ピチ☆リチ)などのショータイムあり。ミルクせんべい、チュー・ペット、ジューズなどの模擬店や、スーパーボールすくい、ストラックアウト、ジャンボカラカラなどの遊びコーナー

**住まいの防犯レベル** 高めよう

- ① ワンドア・ツーロックは常識
- ② ピッキングに強いカギに交換
- ③ 窓にも補助錠の取り付けを

PHS 携帯OK ☎0120-70-5569

**(2F) 港カギ防犯センター**

安全・安心をご提供します

港区港嘴1-4-8 (港嘴小学校並び)

☆大阪府錠前技術者防犯協力会会員  
☆港防犯協会会員 ☆防犯設備士第00-6738号

、さらにバザーや作品展、最後にお菓子のつかみどりプレゼントも。当日のバザーや費銭などの収益は全て社会福祉募金に充てられる。八月二十日(金)午後四時〜六時半に同寺前地藏尊と境内で。参加無料。開催中出入り自由。雨天でも境内で実施。西明寺は正式名「紫雲山西明寺」。浄土真宗本願寺派(西本願寺)。「あいさつができる町」「安心して住み続けられる町」「住んで良かったといえる町」「住みたいといわれる町」を三事業に地域住民の「拠り所」として様々な事業を展開。市岡一・一・四 ☎六五七一・五八六。

**ひとくちPR**

(二行)税込二〇〇〇円)

- **おしゃわわわい** 神戸メーカー直送。お出かけから普段着・肌着まで。サイズ豊富。ブティック・ミント(八幡屋二一四・八、入舟公園前 大阪信金横十〜十八時営業、日月定休)。
- **介護のようほお任せ** ①介護や老いの相談に乗ります②介護手続きを代行します③トイレ・バスは送迎付きで入浴・昼食・手芸・ゲーム・テレビ鑑賞・カラオケ・囲碁・将棋・麻雀・体操・おやつなどを楽しめます④訪問介護は買物・掃除洗濯・通院などを手伝います。NPOみなとこ同ヶアセンダー(南中區二一六・一六、TEL六五八三・四八八〇、FAX六五八三・二二二〇)。
- **あなたのふとんが生まれ変わる** 綿も羽毛も掛も敷も、熟練職人が心込めて仕立て替へ。シングル掛敷(ふとん)二万円〜。ふとん館ひらのや(南中區三一一・一八 繁栄商店街東入口フーダーヤル〇二二〇・四二四九・九五)。
- **レンタルフリーボックス** 一カ月二〇〇〇〜一八〇〇円。鍵付きガラスケース・棚上陳列スペース・ハンガー・足元置きカ「なごの月極レンタルも。コスメハウスナナイロ(南中區三二二・九 繁栄商店街内 六五八六・二九五)。

- **アルバイト急募** 週一回の新聞配達(月一回の集金を都立のいい時間に。港民工商工会) 四二一〇・一六、六六五七二・七八六七)。
- **放課後・春夏冬休みは学童保育へ** 入所見募集。指導員が安全・健全・家族的に学びや遊びを指導。体験可。六五七五・〇三三五ありんこ。
- **ボクササイズでシェイプアップ** 女性も小・中・高生も楽しく練習。親切指導。家族的雰囲気。月会費八千円(無期限十枚づりチケット八千円)。入会金二万円をコミ半額。練習日は月・水金の十九時半〜二十一時半。港ホクシングジムは三先一・一三・九(地下鉄朝潮橋駅南側の歩道橋すぐの裏通り)。http://ameblo.jp/minatogym/
- **新しい学びの世界へ!** チーム学習によって「全員がわかる」をめざす画期的な学習スタイル。小〜高。月謝は週一回で実質八千円。NPOが運営。問合せはメールで「ナビライスクール 繁栄商店街」(info.ubiquitous.adv@gmail.com)へ。

**読者プレゼント**

※いずれもハガキに「月言」の感想とプレゼント名を書いて二十日必着で港新聞へ。

- **関西フィル「第259回定期演奏会」**(三文化案内)招待券をへア一組に。
- **弁天シネマ倶楽部「黄色いリボン」**(三文化案内)招待券をへア一組に。
- **あながいおまる一座「秋情れ寺即風雲」**(演劇カイド)招待券をへア一組に。
- **汐社「大洪水! あばれ川とたたかった男」**(図書カイド)を二名様。

**代筆**

~何でも書きます、まどめます~

- ★手紙・案内・報告・宣伝・司会などの文案
- ★自分史・社史・団体史などの聞き書き
- ★新聞・広報・書籍・会報などの取材・編集

**港新聞・飯田編集事務所**

TEL・FAX:06-6571-4636

Eメール:yamaemi@bridge.ocn.ne.jp

http://osaka-minatonews.sakura.ne.jp/